

Anzu Journal

No. 36



杏林大学総合政策学部杏会

Anzu Journal No.36

Contents

三役からご挨拶	02
新任教員紹介	05
キャリア支援	06
就職内定者紹介	08
成績優秀者紹介	12
GCP留学生紹介	14
交換留学生座談会	16
地域交流活動	18
グローバルな課題への取組み	22
コンソーシアム八王子学生発表会	24
3学部連携学園広報活動	27
プレゼミナール紹介	28
ゼミナール紹介	30
ゼミナール合宿	38
杏園祭実行委員会より	40
ゼミナール連絡会より	42
総合政策学部賞	43
馬田啓一賞	44
修学支援新制度のお知らせ	45
杏会より	46
杏門会より	47
編集後記	48

井の頭での 四年間

総合政策学部長 教授 大川 昌利



総合政策学部では、本年三月末をもつて井の頭キャンパス移転から、ちょうど四年が経過しました。本年三月に卒業を迎える諸君は、入学時から井の頭キャンパスに通学してきた、いわば「井の頭二期生」の諸君ということになります。ゼミの最中などに、かつての八王子キャンパスに言及しても、学生はその存在を知らず、また教職員の中にも八王子の勤務経験が無い方も見られるようになっていきます。周囲の景観にすっかり馴染んだ井の頭のキャンパスでは、移転当初に植えた木々もだいぶ背丈を増し、あと数年経てば、一段と大学のキャンパスらしい風情が感じられるようになることと思います。

この四年間、教育面では、学部創設以来の特色である学際教育に関し、コース制の導入や学際演習の必修化等によって専門性とのバランスを取りつつ、従来にも増して推進して参りました。また、グローバル化への対応として、GCP（グローバル・キャリア・プログラム）を発足させ、将来グローバル・ビジネスに従事したい学生に対し、必要なビジネススキルを教え、留学を強く促すとともに、帰国後は英語による社会科学

系の科目の履修機会を提供してきました。学部全体の英語教育の拡充にも取り組み、これらの目的のためにネイティブ教員の採用増等、教員サイドの充実にも努めてきたところですが、これらの努力が功を奏し、この数年、学部への入学希望者は大きく増加したほか、新卒者の就職に関しても、ほぼ100%の就職率となる年が続きました。また、今年初めて卒業生を出すGCPにおいては、ほとんどの卒業生がグローバルな活躍が期待される職種への就職が決まった模様です。

このように、井の頭キャンパス移転後最初の四年間は、キャンパス移転効果もあり、大きな成果を挙げ得たということができるのではないかと思います。この間、保護者の皆様の「ご支援ご鞭撻が学部の大きな支えとなつたこと」は改めて申し上げるまでもありません。もともと、学部教育が直面している課題に対しては、以上のような対応で事足りるわけではありません。社会の大きな変化を教育内容に適切に反映させていくことは、社会科学を学際的に学ぶことを目的とする総合政策学部のいわば宿命であり、卒業生諸君が有為な社会人と

して未来に羽ばたいてもらうためには、絶えず教育内容を見直していく必要があります。今後の社会においてはAI（人工知能）の発達やIoT（物のインターネット）やビッグデータ等の活用によって情報化が一段と進展すると予想されており、こうした動きが社会生活にもたらすインパクトは極めて大きいものと予想されます。総合政策学部では、こうした観点に立ち、現行カリキュラムの見直しを進め、時代の流れに即した教育内容を鋭意準備して参りたいと考えております。

また、わが国では、いわゆる18歳人口の減少を視野に入れた大学教育の見直しが進められています。その重要な要素である入試改革についても早急な検討が求められています。個々の大学にとっては、学部教育の将来像と入試の在り方とは切っても切れない関係にあり、私どもとしても、有為な人材の育成に資するためには、どのような入試を行うべきか日々検討を重ねております。杏会の皆様におかれましては、こうした学部教育の方向性につき益々のご支援ご協力を頂きますようお願い申し上げます。



一人一人の 学生さんと向き合って

教務部長 教授 伊藤 敦司

井の頭キャンパス移転に際し導入した、学際的教育、グローバル教育及びキャリア教育の強化を柱とした新カリキュラムも4年間が過ぎようとしており、最初の卒業生を送り出す時期となりました。学際教育に関しては、1年次の複数担任によるブレゼミナールでの学際的な学びの導入、2年次以降の学生各自の専門領域の学習を基礎としながら、複数教員による演習形式の学際演習の履修を通じて、問題の発見・解決のための多角的な視点が養われているようです。グローバル教育に関しては、語学教育の充実を背景に、GCP履修学生をはじめとして留学をする学生が増加しています。キャリア教育に関しては、例年100%に近い就職率にその成果が表れていると思います。

技術革新に伴う産業構造や社会構造の革命的な変化のなか、文系学部出身であってもこのような社会で活躍していくためには、情報を活用

用できる能力が不可欠であり、情報の活用能力を涵養するための教育が課題となっています。将来のカリキュラム改正の課題であるとともに、在籍中の学生さんたちへの対応が喫緊の課題と言えます。このため、情報機器を使いこなすコンピュータリテラシーはもちろんのこと、大量の情報を収集し「自己」の専門分野に向けて適切に分析・活用するための知識や技能を身に付けるための科目を設置するとともに、既存の科目でもこの視点からの学習を出来得る限り取り入れています。

ところで、昨年の杏ジャーナルで紹介しましたが、平成30年11月4日に開催された本学部卒業生の同窓会である杏門会 30周年記念の「卒業生の集い」で、大学時代学んだことで現在役立っていることはゼミナールでの学びであったと多くの卒業生が話していました。ゼミナールでの教員からの指導は、仕事のうえではもちろん、生きていくうえで

大きな糧となっているとのことでした。また、それに加え、演習での発表や卒論に向け、ゼミ員同士で頑張ったことが自信となり、また、良い思い出となっているとのことでした。本学部では、創立当初から「person to person」の理念のもと、一人一人の学生さんを大切に教育することを目指してきました。現在、1年時のブレゼミナール、2年次以降のゼミナールを始めとして少人数教育の場を多く確保しています。この本学部での教育の方向性の正しさを改めて実感した出来事でした。全教員が、引き続き一人一人の学生さんに向き合う教育を行っていくつもりです。もちろん、先に述べたように社会は急速に大きく変化しており、その対応が迫られ、学部での教育内容や方法も常に見直しが必要となります。しかし、「person to person」の理念のもと、一人一人の学生さんの顔を見た教育は引き続き維持されていくべきものと確信しています。



オリンピック・ パラリンピックがやってくる!

学生部長 教授 内藤 高雄

昨年4月に総合政策学部学生部長に就任し、2年目に入りました。それ以前に学生支援センター長を務めておりました期間をも含めて、私は、井の頭キャンパスが学生にとって魅力あるキャンパスになるように、充実したキャンパス・ライフが実現するように、学生支援の側面を担当してまいりました。

井の頭キャンパスも今年で4年目を迎えます。来年3月には井の頭キャンパス1期生が卒業し、社会に羽ばたいていくことになりました。改めて思うことは、月日が流れるのは本当に早いなあ、ということですね。八王子キャンパスから井の頭キャンパスに引越した時が、ついこの間であったような気がします。時代が昭和から、平成、そして令和へと移り、来年の夏にはオリンピック・パラリンピックが東京にやってきました。マラソン

の札幌へのコース変更や、そもそも夏の暑い時期に東京でやることの是非など、いろいろと議論はあるでしょう。それでもおそらくこの秋のラグビーのワールドカップ以上の盛り上がりを見せることでしょう。

前回の1964年の東京オリンピックは、私はまだ物心つく前で、全く記憶がありません。そういう意味では私にとっても初めての日本で開催する夏季オリンピック・パラリンピックです。今年、ラグビーのワールドカップで、「4年に一度ではない。一生に一度だ!」という言葉が流行しましたが、学生たちにはこの一生に一度になるかもしれない東京開催のオリンピック・パラリンピックを、学生時代にむかえることができるという貴重な経験を得る機会を、是非とも大事にしていたいただきたいと思っております。

すでに大会公式ボランティアに登録している学生もいることでしょうが、地域のボランティアなどでも、まだ登録可能なものはあると思います。あるいはそんな大げさなことでなくとも、オリンピックを観戦に行くとか、チケットがなくても競技場周辺を訪れるとか、街を歩いている外国人に親切にお世話をしただけでも良いと思います。私自身は、オリンピックは夜中にテレビで観戦するものと思っておりますが、1998年に白馬で日本の金メダルを生で見た時の感動は、決して忘れることのできない思い出です。

「神輿は見るよりも担ぐほうが楽しい!」といます。この4年に一度、いや一生に一度のイベントを、学生たちには是非とも貴重な経験にしてもらいたい、そんなことを考えている今日この頃です。



総合政策学部 講師
尾崎 愛美

2019年度から総合政策学部にて任じました、尾崎です。刑事訴訟法・憲法・情報法を専門領域としており、「メディアコンテンツと法」「日本国憲法」「生活と法」などを担当しています。どの授業でも、毎回、教員の質問に対する回答、ないし、受講者からの質問を受け付けるようにしており、双方向型の授業を心掛けています。

「日本国憲法」や「生活と法」は三学部合同

設置科目であり、様々な学部・学科の皆さんと多様な意見を交わすことができ、日々新たな発見があります。たとえば、2019年度秋学期は、井の頭キャンパスと三鷹キャンパスの両方で「日本国憲法」の授業を行いました。同じテーマについての授業であつてもリアクションが全く異なりました。このような経験は、教員としても大きな学びに繋がっています。

「メディアコンテンツと法」では、メディアの発展の歴史を追いつつ、社会がこれらの課題に対してどのように対処してきたかを学ぶことを目的としています。現代では、インターネットとIoT (Internet of Things)・モノのインターネット)の普及により、大量のデジタルデータ (Big Data)・ビッグデータ)を生成・収集・蓄積できるようになり、これらのデータをAI (Artificial Intelligence: 人工知能)を用いて分析することが容易となりました。このような変化は革命的なものであり、現代は「第4次産業革命」の時代とも言われています。このような第4次産業革命を迎えて新たに浮かび上がった法的・社会的課題について検討する

のが、「メディアコンテンツと法」の授業の内容です。

なお、私のこれまでの来歴を簡単に申し上げますと、2014年に慶應義塾大学院の博士前期課程(修士課程)を修了し、同大学の後期博士課程(博士課程)に進みました。修士課程・博士課程を通じた研究テーマは「捜査とプライバシーの関係について」です。2017年から、博士課程に所属する傍ら、株式会社KDDI総合研究所に研究員として着任しました。ここでは、プライバシー・個人情報保護法制に関する判例や法政策等の最新の動向を把握することを主な職務としていました。また、世界各国の通信キャリアの動向や通信政策の把握も行っていました。

最近では、情報系研究者・人文社会科学系研究者・ビジネス関係者・政策立案者等と連携しつつ、AI社会がもたらす諸問題についての考察を行っています。このような研究課題についても、適宜、学生の皆さんに共有し、学生の皆さんが高度情報化社会にどのように参画していくべきかを伝えていきたいと思っています。

キャリアサポートセンターの紹介

2019年度 キャリアサポートセンター年間スケジュール

行 事	対象学年	総合政策学部
4月 学部オリエンテーション キャリアガイダンス 学内資格講座ガイダンス 外国人留学生就職ガイダンス	1~4年	3/28(木)~4/3(水)
	1~4年	4/4(木)~4/17(水)
	4年	4/20(土)
5月 就職ガイダンス(総合政策学部) 学内企業説明会 就職用証明写真撮影会:有料 就活スタートアップ講座 1・2年生向け就職ガイダンス	3年	5/8(水)
	4年	5/13(月)・5/14(火)
	3・4年	5/15(水)
	3年	5/18(土)
	1・2年	5/29(水)・5/31(金)
6月 (U・Iターン就職)LO活セミナー 就活トライアル 多摩地区17大学合同企業説明会(八王子東急スクエア)	1~3年	6/5(水)
	3年	6/22(土)
	4年	6/26(水)~28(金)
7月 筆記試験対策講座① 業界理解セミナー	1~3年	7/8(月)~7/12(金)
	1~3年	7/17(水)・7/18(木)
8月 インターンシップ研修(事前・事後指導含む)	1~3年	8月~9月
9月 就職ガイダンス 学内資格講座ガイダンス 就職用証明写真撮影会:有料	3年	9/18(水)
	1~4年	9/19(木)・9/20(金)・9/24(火)
	1~4年	9/25(水)
10月 学内合同企業説明会(大学新聞社) 1・2年生向け業界・企業研究の必要性を知る講座 筆記試験対策講座② メイクアップ講座 グローバル企業セミナー 公務員ガイダンス	4年生	10/3(木)
	1・2年	10/16(水)
	1~3年	10/21~12/16(11/4除く)毎週月曜日
	1~4年	10/23(水)
	1~3年	10/23(水)
11月 就活トライアル 業界研究セミナー	3年	11/2(土)
	1~3年	11/6~12/4 毎週水曜日
12月 (U・Iターン就職)LO活セミナー 就職試験模擬テスト(WEBテスト)	1~3年	12/11(水)
	1~3年	12/23(月)
1月 就職ガイダンス 自己分析講座 就活実践講座 就職用証明写真撮影会:有料	3年	1/8(水)
	3年	1/5(水)
	3年	1/10(金)
	1~3年	1/14(火)
2月 企業研究セミナー	3年	2/14(金)・2/26(水)・2/27(木)

前

期

後

期



就職カウンセリング



キャリアサポートセンター職員

就職ハンドブック活用法

キャリアサポートセンターでは学生の就職活動を支援するため、就活ハンドブックを配布しています。ハンドブックには就職活動における必要な情報を掲載しており活用することで円滑に就職活動を進めることができます。

Q.どのような情報が掲載されていますか？

A.自己分析や業界研究の方法、企業へのEメールの送信方法や電話のかけ方、面接時の注意点、大学指定の履歴書の書き方等が掲載されており、手元に置くことで必要な情報をいつでも確認することができます。



1・2年生向け就職ガイダンス

1・2年生の低学年を対象としたガイダンスを2019年度から実施しています。

就職スケジュールの最新情報や就職活動に向けた準備について解説するとともに今後の学生生活の過ごし方について説明をします。

低学年時から自身の将来について考える機会を提供し、将来像を具体化することでそのキャリアに向けた準備を促し、意欲的に学生生活に取り組むことを目的としています。

就活トライアルについて

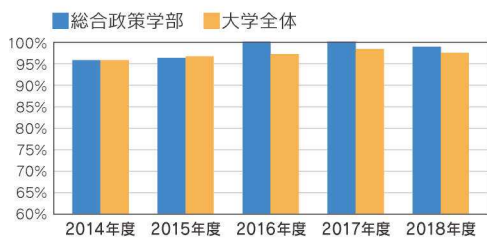
このイベントは2012年より開始され総合政策学部の3年生が全員体験します。仮想企業を設定してエントリーシートの提出から内定獲得までの選考過程を疑似体験でき、就職活動に対する準備を踏まえた重要な学部イベントとして毎年春学期と秋学期の年2回実施しています。

就活トライアルの具体的な内容としてエントリーシートをあらかじめ必修科目の授業であるキャリア開発演習Iで作成し、そのエントリーシートを基に本番さながらの集団面接を受けます。又、選考試験の一つであるグループディスカッションや就職活動に欠かすことのできない身だしなみやマナーの講座も体験します。

さらに、業界研究の仕方に関するミニ講座も設けています。参加学生からは「グループディスカッションも集団面接も実際の形式で体験する為、大変緊張しましたが、本番の前に課題がわかり良かったです」という感想も寄せられ、緊張感を持った取り組みは就職活動に対する学生の意識向上につながっています。



■就職率の推移 (2014年度卒～2018年度卒)



学部	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
総合政策学部	95.7%	96.2%	100.0%	100.0%	98.9%
大学全体	95.8%	96.4%	97.3%	98.4%	97.7%
厚労・文科省発表	96.7%	97.3%	97.6%	98.0%	97.6%

就職率 = 就職者 / 就職希望者

■2018年度求人倍率

●求人数 5,486件 ●求人倍率 6.1倍
(求人数 / 保健・総合政策・外国語学部者数)

本学卒業生の採用実績の多い企業を中心に、多岐にわたる業界から毎年多くの求人票が送られてきます。

■2018年度主な就職決定先 (2019年3月卒)

2019年5月1日現在【総合政策学部】

- 【教育・公務】杏林学園 / 埼玉県教育局 / 武蔵野東学園 / 神奈川県警察本部 / 警視庁 / 千葉県警察本部 / 東京消防庁 / 奥多摩町 / 府中市 / 法務省 / 防衛省
- 【金融】栃木銀行 / 山梨中央銀行 / 協栄信用組合 / 桐生信用金庫 / 西武信用金庫 / 多摩信用金庫
- 【小売】スズキ自販南東京 / ツツミ / ノジマ / ビックカメラ
- 【製造】コーセー / 大和冷機工業 / タチエス / ファンケル
- 【建設・不動産】三機工業 / 積水ハウス / 立飛ホールディングス
- 【商社】小泉機器工業 / コア商事ホールディングス / 巴商会
- 【情報通信】ソフトバンク / ヤフー
- 【サービス】IPAグループ / セントメディア / 総合警備保障 / ティップ / 東京あおば農業協同組合 / トランスコスモス / ネクシーズグループ / 平山
- 【運輸】東京地下鉄 / 東邦運輸 / 東日本旅客鉄道

■インターンシップ先

- 八王子市 / 羽村市 / 府中市 / 三鷹市 / 武蔵野市 / 西武信用金庫 / アクセスヒューマネクスト / NHKグローバルメディアサービス / 吉祥寺東急REIホテル / グローセル / サクシード / 三機工業 / サンドラッグ / 白川プロ / タケダ / 多摩信用金庫 / 日神不動産 / 日本ハウズイング / ハーフ・センチュリー・モア / 水戸証券 / メディセオ / リンレイ / 渡辺パイプ

就活で見えてきた本当の興味。 「まちづくり」に携わる営業職へ

網谷 紀香 さん

公務員志望から企業への就職を目指す

私は高校生の頃から公務員志望でした。試験には幅広い知識が必要なので、そういう学びができる場として総合政策学部を選んだのです。親に授業料を払ってもらっているのだから、勉強もアルバイトも当たり前、何でも頑張ろうと決めて入学しました。高校では部活に熱中するあまり勉強してこなかった分を取り戻そう、社会のことを吸収しなければという思いも強くありました。これまで毎年、成績優秀者になつていますが、やってきたことに結果がついてきたのだと受けとめています。ファイナンシャルプランナーの資格も取得できました。

自分なりに頑張つてきて、3年生になったときに公務員の模擬試験を受けたのです。しかしまだ努力が必要だと分かり、本番の試験までにかかる費用も考えると、本当に公務員でいいのかと思うようになったんですね。両親にも相談し、考え抜いた結論として、時間もお金もかけて公務員を目指すのなら、企業に入って自分で稼ぐと決めたのです。

とはいえ、進みたい分野も定まっています。さまざまな業界の企業をたくさん訪問しながら、公務員を志望していたときに自分は何がやりたかったのかを改めて考えました。そこから見えてきたのが、「まちづくり」に携わりたいという方向です。そ

れができる分野として、広告系と建築系を考えました。私は広告系には興味がなかったため、建築系に進もうと決め、建設業と建材メーカーに絞り込んだのです。しかし、建設業は10社ほど訪問し、自分には向かないと実感したんですね。一方、建材メーカーは住宅などさまざまなものに関係し、まちづくりにつながる可能性があります。進むならこの分野だと思いました。

新たな気持ちで企業を回り、内定が決まったのが地元の富山に本社を置く三協立山でした。富山ではトップ3に入る企業です。直近では東京オリンピック・パラリンピックの体操や水泳、馬術の会場に自社製造の建材を納めています。いつか私もそのような大きな仕事に携わり、まちづくりを盛り上げていきたいと考えています。

営業でばりばり働き、形に残る仕事を

これまでの大学生活の最初の道を拓いてくださったのが藤原先生です。入学前のキャリアガイダンスで初めてお会いし、入学してすぐに研究室を訪ねました。突然伺ったにもかかわらず、公務員になるためのアドバイスをしてくださったんですね。大学は先生との距離がこんなに近いんだ！と驚きました。私は結構、人見知りなのですが、分からない

ことはすべて「教えてください」という感じでよく研究室に通っていましたね。

2年生からはゼミでも指導していただきました。藤原ゼミでは民法を中心に、法律に関わる時事問題をたくさん扱います。公務員志望で入ってくる人が多く、欠席する人もほとんどいません。私はまちづくりに関心があったので、渋谷や品川などの再開発をテーマにプレゼンをしたり、知らなかったこともテーマとして与えられ、たくさん学ぶことができました。2年生の後期からはゼミ長も任せられ、貴重な経験をさせていただいたと思っています。

勉強の一方、アルバイトもいろいろとやりました。2年生からは三鷹の銭湯で働いています。アパートの近くにあり、お風呂にも入れるからです。昔ながらの銭湯で、受付をしたり、ランドリーの掃除をしたり。お客様はお年寄りの方が多く、おしゃべりするのが楽しいです。就活ではこのアルバイトが一番、面接で企業の方々とお話をするきっかけになりました。

入社したら富山で研修があり、その後配属先が決まります。私は東京の営業志望です。営業がやりたいし、キャリアアップもしたい。エントリーシートには「形に残る仕事がしたい」と書きました。ばりばり働いて、誰にでも「私は今、こういうことをしている」と胸の張れる仕事をしていきたいと思っています。

人間関係を育み、利便性を支える。 「組織文化」で未来を創る商社へ

内藤 雅人 さん

問口の広い学びから経営学へ

企業診断士を目指していた父の影響で、ずっと経営学を学びたいと思っていました。入学当初は経営学しか頭になかったのですが、総合政策学部で1年次から経済や法律、福祉など幅広く学ぶうち、さまざまなことに興味が湧いていったんですね。そのうえで、やはり経営学を勉強したいと思い、2年次からは経済関係のゼミに進みました。

元日銀の先生によるゼミで、とくにフィンテックなどの最新テーマに興味を湧き、勉強しました。ただ、それを伝えるとなると話は別です。プレゼンをたくさん経験し、自分で理解していることを、知らない人に伝えるのは本当に難しいことなのだと感じました。誰に向けての言葉なのか、どういふときに使う言葉なのか。5W1Hを意識し、目を閉じたときに自分が話している内容が情景として思い浮かぶよう心がけるようになったのです。

このような経験をして就職活動に入り、結果的に商社の高干穂交易に内定が決まりました。同社を目指したのは、半導体や電子機器の未来のヒット商品がいち早く知ることができる、説明会で聞いたからです。利便性を支える仕事に携わりたかったので、まさにやりたいことでした。就職のためによく何かを勉強したということはありません。学内の

TOEIC BRIDGEは5位、SPIは2位になるまでには学びました。面接では、僕は人間関係を重視してきたので、仕事を通して多くの人と関わることが商社の魅力だと思いつつ、自分の経験に基づいて伝えました。それが会社の考え方や方向性とマッチしたのだと思います。

一度きりではない関係ができる仕事

経験の一つとして、面接ではアルバイト先でのエピソードを話しました。僕は自動車が好きで、父の車の整備を手伝ったりしています。ボディのコーティングの資格も取得しました。それぐらい車好きなので、バイトも自動車整備工場を選んだのです。

店番をしていたときのことでした。「近くでパンクしたので、何とかしてほしい」と電話が入ったのです。でも到着して確認すると、該当するサイズの在庫がなかったんですね。自分の判断で近隣のすべてのタイヤ販売店に電話をして調達し、付け替えました。手持ちの現金がないとのことだったので、署名をいただいで、代金は後日払いにしました。以来、そのお客様は整備やタイヤ交換のたびに訪れるようになったのです。この経験がきっかけで、一度きりではないお付き合いを営業としてやっていきたい、と思うようになりました。



授業でも発見がありました。例えば経営組織論で学んだ、工場の工場に対して行った労働生産性に関する実験結果があります。一つは、和気藹々と仕事をしているけれど、設備などの労働環境は普通。もう一つは、労働環境は整っているけれど、黙々と作業をしている。同じ仕事量では、前者のほうが早く終わるといったデータがあります。組織が成立するには、「コミュニケーション、協力し合う意思、共通の目標が必要なのだ」と学びました。自分が働く場でもこの3要件を重視したいとエントリーシートにも書き、評価していただきました。

組織文化論で知ったのは、組織にも文化があるということです。面接では一般に長所や短所などを尋ねられますが、唯一「チームワークを発揮した経験はありますか」という質問を受けたのが高干穂交易でした。どの組織にもチームワークは必要ですが、あえて質問をするということはチームワークの文化がある会社だからです。その文化に共感しました。

就活では不動産や金融、製造、小売りなどさまざまな業界の企業を受けましたが、すべて財務諸表をプリントアウトして資本比率などを比較し、各社が参入している産業・分野の伸び具合も分析しました。その中で最も財務状況が良く、父にも相談して決めたのが高干穂交易です。最初は問口を広く、学びながら興味を突き詰めていった結果だと思っています。

※SPI: Synthetic Personality Inventory(総合的な個性・性格の評価)の略。企業が就活生の能力を測る筆記試験のこと。

企業との協働、広報、留学……。 自分に役立つ学びを原動力に

長尾 真志 さん

チームワークが養う企画力・プレゼン力

昨年3月にNTTコミュニケーションズの内定が決まりました。NTTにはさまざまなグループ企業がある中で、国際通信事業を展開しています。もともと農業に関心があったことから最初は食品関係を考えていたのですが、2年次からゼミでイベントの企画や広報に携わったことをきっかけに広報関係を調べるようになりました。すると、ITの話がすごく出てきたんですね。だんだんとIT方面に関心が向かっていって、最終的にSenior(エスアール)を目指し、NTTコミュニケーションズに行き着いたのです。

そこに至るまでで一番大きかった経験は、ゼミです。2年次からゼミ活動があり、企業と協働したプロジェクトに取り組みました。その一社が、商社のツカモトコーポレーションです。同社は和装事業を展開し、きもの振興のあり方を模索していました。その課題解決策として、ゆかたに焦点を当て、八王子の商店街と連携して夏にイベントを実施したのです。集客アップへ向けた一般投票によるコンテストの企画、これを不正なく円滑に行うための仕組みづくり、外国人集客のためのポスター作製やうちわのデザイン制作、JR駅職員への調査をもとに駅の外国人対応強化へ向けた言語カードの作成も行いました。

この経験を糧に、3年次にはリーダーとしてチームを編成し、新規事業プランをプレゼンテーションする二つの大会に出場しました。長期にわたるフィールドワークや実地調査を行い、プランをまとめ発表したところ、二つとも優秀賞を獲得することができたのです。チームワークはもとより、企画に際しての細かい気配りや地道な事前調査、提案内容の強み・弱みをしっかりと把握することの大切さを学びました。

並行して取り組んだのが、大学の広報プロジェクトです。広報のノウハウをリクルート社の方々に学びながら、大学の広報企画を立て、運営するというものです。「やるしかない」と思って参画しました。夜の時間帯の「ナイト・オープンキャンパス」を立案し、副理事長にプレゼンして予算をいただき、昨年11月に実現することができました。

文化的背景の異なる年代と学んだ成果

ナイト・オープンキャンパスで多くの高校生に聞かれたのが、僕も入っているGCPについてです。「GCPは英語を勉強するところですか」といった質問が多かったので、目的を実現するために英語を身につける場であるということ、僕自身の経験を交え伝えました。

僕は農業をやりたいかったです。が準備が足らず、それが学べる学校に落ちてしまったんですね。将来が見えなくなったタイミングで届いたのが、総合政策学部の合格通知票でした。その中にGCPの第一期生の募集案内が入っていて、何かが見つけられると直感したのです。まずはここで自分に役立つことをしようと思いつき、アルバイトでお金を溜めながら学び、2年生で留学するときには日常会話レベルの英語が話せるようになっていました。

留学先はオーストラリアのアデレード州にある語学学校です。最初のクラスは日本人が大半で正直、不安になりました。でも頑張つて上に進むことに日本人は減り、授業も実践的になり、半年間でレベルアップできたのです。文化的背景の異なる年代の人たちと友達になり、一緒に学べたことは、留学の大きな収穫でした。彼らとは今もやりとりしています。

留学の経験をはじめ、ゼミや広報プロジェクトへの取り組みを通して、目指す方向が定まっていたのです。内定が決まったときも、「これからも学生時代の経験を生かしてください」と会社の方から言われました。就職を意識してやってきたことではなく、やらなきゃと思つてやってきたことが、やりたいうことに結びついていった形です。これから入学してくる人たちにも、大学時代は自分に役立つことをやってほしいと思つています。

※Ster: ITで課題を解決していく専門職のこと。

やれることはすべてやる。

独学で試験を突破、警視庁に内定

秋山 大樹 さん

中学時代からの夢の実現へ

警察官になりたい—この夢を持ったのは中学生の頃です。とくに白バイ隊員は憧れてました。白バイの競技会を観る機会があり、あの重たいバイクを自在に操るかっこよさに感動し、自分も警察官になって白バイ隊員を目指したいと、ずっと思っていたのです。

警察官が志望なので、大学では法律を学ぼうと考えていました。今、多くの外国人が日本を訪れ、文化の相互理解の大切さが増しています。そのようなことが警察にも一層求められてくるのではないかと、一つの物事をいろんな視点で見られるようになりたいと思います。総合政策学部に決めました。幅広い学びから入って、2年次で法律関係のゼミに進んだのです。

ゼミは主に国内の問題を扱っていたのですが、テレビのニュースでは分からない問題の根源を細解いてくださり、とても勉強になりました。それだけでなく、警察官の公務員試験では数的処理の問題が結構出るので、大学では数学の授業がなく、僕自身も基礎が分かっていなかったことから、ゼミの後に教えていただいたりもしました。そうしたこと感謝はしつつ、警察官の試験準備に本腰を入れるため、3年生の夏にゼミを辞めたのです。

というのも、一次の筆記試験は出題範囲が膨大なんです。そのため、公務員試験を受ける人の多く

は専門学校に通います。しかし学費は高く、親に負担をかけたくなったので、僕は独学を選びました。とはいえ、参考書を一から読み込んでいたのでは、とても間に合いません。そこで問題集を集めてひたすら解き、間違えた問題は参考書で調べ、似た問題も解いていくことを繰り返し、解き方を覚えていったのです。その一方、キャリアサポートセンターの方に論文の添削や面接の練習をしていただきました。また、公務員の就職で実績のある大学に進んだ友達に元警察官の教授を紹介してもらい、論文の添削をお願いしました。

ゼミに入っておらず、専門学校にも通わなかったのですが、自分で動くしかない。けれども自分だけでは不安だったので、ツテをたどってさまざまな方々の力をお借りしたのです。

本番で自然とスイッチが入る自分に

二次試験の面接対策では、総合政策学部の学生が対象のイベント「就活トライアル」に参加しました。専門の面接官による本番さながらの面接です。フィードバックはすべてメモをとり、面接で話す内容を練っていきました。インターンシップも活用しました。地元八王子市役所の交通安全課が主催する交通安全教育で、子どもたちに自転車のヘルメットの大切さを伝

える講座を受け持ったのです。話だけだと飽きてしまうので、クイズを出したり、自分のヘルメットを持参して触ってもらったりと、参加型を重視しました。

準備を重ねて、就職活動を始めたのは2018年2月のことです。5月に試験がある警視庁を第一志望として、県警や民間企業も受けました。落ちてしまった企業もありますが、その理由を掘り起こし、自分の駄目な部分を消去していったのです。さまざまな人が指摘する自分の良いところは本当に良いところで、駄目なところは本当に駄目なところなんです。駄目なところから見えてくる課題を具体化し、改善して、警視庁の試験に集中しました。

本番で自然とスイッチが入る自分になっていた、と思っただけです。警察も企業も、組織のあり方に則した人材を採用します。会社訪問や面接などの機会に、そこで働く人たちはどんなことを考え、どんな話をし、どんな趣味を持っているのかなど、情報も収集しました。体力検査もあるので、就活を始めたときから毎晩、6キロのランニングを続けています。少しでも時間があればやれることはやっておくというタイプなので、準備は徹底しました。

自分で動いた結果、第一志望の警視庁に採用が決まりました。これから就活に入る人たちにも、自分から動いて、見たり、聞いたりして得たものを本番で生かしてほしいと思います。



目標を持ったら準備を怠らない。
「なりたい姿」へ必要なことを徹底

寺田 龍人 さん

自分の未来像に関わる政治に興味

高校時代の僕は、学びたいこと、なりたい姿が明確ではありませんでした。その中で、杏林大学の総合政策学部を知ったのです。経済や経営、法律など幅広い分野を学ぶことで、なりたい姿が見つかるのではないかと思い、入学を決めました。

1年生のときに参加したインターンシップは、その後の僕のあり方に大きく影響しました。共働きの家庭に入って半年間、子育てを体験したのです。僕は子どもがすごく好きなのですが、実際の家庭では思い描いていた接し方ができなかつたり、普段はやらない家事もたくさんやることになり、子育ての現実を知りました。

これだけ大変なのに、男性の育児休業取得率は数%に過ぎないということも、この経験を通して初めて知りました。僕は自分の子どもが生まれたら、子どもといる時間を大切にしながら働いていきたいと思っているのですが、それが難しいのが日本社会の現実なのです。なぜなのかを考えるうち、政治に興味を持つようになりました。政治家になりたいわけではないけれど、自分の未来像に関わることで、2年生のときに政治コースを選択し、日本の政治を研究するゼミにも所属して学びを深めていきました。

育児休業に関するアンケート調査も行いました。すると「会社の雰囲気として取りづらい」という回答がとて多かつたんですね。調査結果をもとにゼミで改善案を練り、発表しました。育児休業取得経験がある男性社員の講演を軸とした大学との提携イベントです。学生と育児休業取得者と取得を考えている人の三者をつなぐ場づくりと言えます。実際に取得した人の声があると、背中を押されると思っています。僕のように未来の子育てのあり方を思い描いている者にとっては、プライベートと仕事は両立できるという自信につながります。

成績優秀学生になることが恩返し

そのような活動をしながら1年生のときから思っていたのが、大学まで進ませてくれた両親への恩返しです。一番の恩返しはやはり、しっかりと修学し、好成績を収めることだと思います。その証しになる成績優秀学生を目指し、一つひとつの授業に没頭しました。

その結果、1年生で成績優秀学生になることができ、頑張った甲斐があった、これで親も喜ぶと思いました。ところが、学年の中で成績優秀学生は10人ほどいて、自分は9位だったんですね。2年目もひとむきに頑張る人はあまりいないだろう、ならばと

1年目以上に勉強に専念し、翌年は4位に。でも、まだ上がいる。悔しい、もっと勉強してその人たちを抜きたい。そう思って3年目も頑張り、学部と全学部で最優秀の成績を取ることができました。

徹底してきたのは、準備を怠らないということ。暗記が必要なものは通学の時間もすべて費やして、ひたすら覚える。理解が求められるものは、必ず復習をして理解を深める。プレゼンに関しては、どうすれば聞いてもらえるか、言いたいことが伝わるかを常に意識し、資料もできるだけ見やすく作る。プレゼンは学生と社会人では伝え方も異なるので、場数を踏んで工夫を重ね、話すスキルやコミュニケーション力を養いました。そこまでやって評価されなければ仕方ないと思えるまで準備をする。その蓄積が実ったと思っています。

今は就活が終わった段階です。3年生で政治に興味を持ち、現状を世の中の人に報せる人になりたいと思い、テレビ業界に絞って活動しました。カメラマンや記者、ディレクターなど職種がたくさんあるので、インターンシップで各職種を理解したうえで編集を志し、NHKの関連企業に内定が決まったところです。勉強や就活だけでなく、子どもの頃からやっていたダンスも部活で続け、アルバイトも時間のバランスをとりながらやってきました。今に至るいろんな出会いや経験ができたことに感謝しています。

当たり前前を徹底、さらに工夫。 理解をストーリーで深める

月岡 杏菜 さん

できる限り効率良く時間を使う

将来は理系の仕事がしたいと思い、高校では理系に進んだのですが、自分には向いていないと感じることがたくさんありました。改めて進路を考えたときに興味を持ったのが、政治でした。ただ、大学進学に当たって政治分野に絞る覚悟が持てなかったのと、他にも福祉や国際関係などいろんなことに興味が湧いてきました。そうしたことを広く学べるのが総合政策学部だったので。何になるかは学んでいく過程で決めようと思いました。

高校時代にもっと勉強しておけばよかったという反省があったので、大学では勉強を頑張ろうと決めていました。懸命に勉強した結果、1年生で成績優秀者になることができたのです。ただ、その中の5位だったんですね。中途半端だなあ、もうちょっと頑張ってみようと思い、2年生では成績優秀者の1位になることができました。

実際、幅広く学べたことはすごくよかったです。世の中はさまざまなことが混ざり合って成り立っているのだと客観的に理解することができました。その過程で、やりたいこととして見えてきたのが法律です。所属しているゼミでは、交通インフラや空き家問題など、社会問題を中心に対応・解決する法律について学んでいます。

これまで工夫してきたのは、空き時間の使い方です。授業とアルバイトの間に少し時間があれば勉強するなど、できる限り効率良く学ぶ。私は暗記が苦手なので、授業中は必ずメモを取り、復習も欠かしません。大学では授業に出ない人もいたりしますが、授業には絶対に出て大事なことはメモする。当たり前前のことをしたうえで、時間の使い方を工夫しました。

テストについても、前期と後期で同じ先生の授業であれば、どういふ問題がどういふふうに出たかを把握する。できたと思えるテストは、どうやったからできたのか。できなかったら、どういふ勉強が良くなかったのか。そこから、次のテストではここを勉強しようとか、勉強方法を変えようといったことを考えていきます。

とりわけ重視しているのは、理解の仕方です。法律についても、先生が解説した内容をただ覚えるのではなく、一つのストーリーとして理解するのです。それができていけば、論文もさほど苦労することなく書けます。分からないことは、先生や同じ授業を受けている友達に聞く。そういうことも含めて、しっかりと理解することを日々積み上げています。

目標を持って、努力を続ける

大学生活を通して、勉強に取り組むことが苦では

なくなりました。そう思えるのは、目標を持てたからです。普段の勉強と並行して簿記の資格を取得したのですが、そうした目標に向かって努力するのが自分は得意ということが見えてきました。達成できなかったとしても、その理由を反省して、次の目標を立て、そこに向かって頑張ることができました。

目標の達成を支えるのが継続だと思います。その意味では、高校3年間を通して続けたフットサルが良い経験になりました。高校で女子のフットサルがある部活はあまりなかったのですが、社会人の大会で決勝リーグに進むことが目標でした。7、8人しか試合に出られない中で部員が30人以上いて、私はキーパーだったのでレギュラー枠は一つしかありません。自分なりに頑張っていたのですが、練習中に指を2本折ってしまったのです。そのトラウマでボールが怖くなってしまつて……。そんなときにみんながボールを蹴ってくれ、徐々にトラウマを克服していくことができました。そして3年生でレギュラーになり、決勝リーグに進むこともできたのです。この経験で物事を諦めない精神力、忍耐力がついたと思います。

勉強面では英語力が課題です。社会に出てからも必要になるので、就職活動が終わったら挑戦したいと考えています。



単語を並べるだけの英語から、 諦めず学び続け、「話す力」を培う

伊藤 あいかさん

自分の意見を伝える勇氣を持つ

留学は高校時代からの夢でした。ただ、高校の3年間はバレーボールに打ち込み、部長でもあったので、ついに機会は訪れず。だからこそ大学では絶対に留学！と決めていました。

総合政策学部に進んだのはGCPがあったからです。英語を学ぶのではなく、英語で専門分野を学ぶという主旨にとっても惹かれました。1年生のときに先生から指導されたのは、単語を並べるだけでいいから自分が言いたいことをアピールする、ということでした。それを繰り返していくと、きれいな文法ではなくても、通じるようになるのです。何とか最初の壁を突破し、2年生でカナダのトロント大学附属語学学校に留学しました。

それでも現地では自分の英語を相手がどう感じるのか不安で、なかなか話せなかつたのです。最初の2週間はずっと日本人と一緒にいたほどでした。でも、それでは留学した意味がなくなってしまう。そこでバレーボールができる体育館を探して、アポイントを取って参加したのです。拙い英語でも自分一人でアポが取れ、一緒に楽しめた。その経験で自信が出てきて、自分から話しかけられるようになり、多くの友達をつくることができました。

トロントにいたのは2018年の9月から12月

までの4カ月間です。最初の1カ月間はスピーキング重視で、残りの3カ月間はライティング重視の授業でした。とくに鍛えられたのは、週1回の「プロジェクト」です。4人のチームで一つの課題を設定し、3カ月間にわたって調査をして、解決策を見出していくというカリキュラムです。私たちは「ごみの削減」をテーマに、Food Waste(食品ロス)の問題を扱いました。そのベースになる情報を集めるため、街中やスーパーなどで現地の人たちに取材を重ねたのです。

ところが、これも最初の頃は自分から声をかけられず、チーム内でも意見を言えなくて……。相手に意図が伝わらず、チームの役にも立てない。このままでは駄目だと少しずつ話していった。「通じる」という経験を積むことで、自分の意見を言えるようになりまし。プロジェクトは毎週金曜日にあるので、そこまでに意見をまとめなければなりません。専門用語も多いので、ひたすら調べる日々でした。悩むこともしばしばでしたが、結果的に私たちのプレゼンは賞をいただけ、やってきたことが実ったと実感することができたのです。

継続は力になると信じて

留学から戻って3年生の前期から、所属する国際

保健のゼミでエイズやHIVなどの保健問題について英語で学んでいます。とにかく課題が多く、専門用語もたくさんあって大変なのですが、やりきる決意です。

そう思えるのはバレーボールのおかげです。私が通っていた高校は夏の全国大会でベスト30が目標でしたが、果たせたことがありませんでした。練習はきつく、部長も任せられ、プレッシャーもかかりました。そういう中で、念願の目標を私たちの代で達成することができたのです。継続すれば成長するということを経験したので、やめ癖がないのだと思います。

就職活動も始まりました。私はオフィスでパソコンを打っているよりも、常に人と何かを共有していきたいタイプです。営業職として英語を生かしていきたいと考えています。旅行が好きなので旅行会社に絞って活動していたのですが、営業を軸にしてもっと広い世界を見てみよう、現在は不動産会社や商社も視野に入れています。

総合政策学部はいろんなことが学べて、学び甲斐があります。さらにGCPに入ればより濃厚な4年間が過ごせる、というのが私の実感です。やめたいと思ったこともあったけれど、続けるからこそ得られることがあると信じてやってきました。経験したことは社会で何かに役立っていくと思うので、継続は力になると信じて大学生活を全うしたいと思います。



多様な国の学生と英語で学ぶ。 コミュニケーション最重視で成長

加藤 さゆり さん

授業とオンラインで英語の基礎固め

総合政策学部に入った動機は、やはりGCPです。外国語学部も考えたのですが、英語も経済も並行して学べるのが魅力だったのです。入学した時点の私は、英語を話せるようになったかったけれど、BE動詞の使い方があやしい状態だったので、正直、最初の頃の授業は大変でした。ネイティブの先生に教えていただいたのですが、宿題は毎週出るし、プレゼンはあるし、それも資料を見ながらでは怒られるし……。愛情をもって厳しく指導されたことで、英語はもちろん、準備の大切さを学ぶことができました。

もう一つ、とても役立ったのが、1年次で受けたGCPのオンライン英会話プログラム「OQENGLISH」でした。スカイプでセブ島にいる先生とマンツーマンでコミュニケーションをするのです。中学・高校の英語の授業は読み書きだけだったので、とても新鮮でした。このような環境を生かして英語の基礎力をつけ、2年生の9月から翌年3月までメルボルンにある語学学校「インパクト・イングリッシュ・カレッジ」に留学したのです。カナダも選択肢にあつたのですが、英語圏で治安も良さそうなこと、気候や食べ物なども自分に合いそうなことからオーストラリアに決めました。その中でも日本人の留学生が比較的少ないメルボルンを選んだの

です。杏林大学の提携校は期間が合わず私費留学にしたので、滞在する先や期間の決定、ビザなどの手続きもすべて自分で行いました。

留学中の4カ月間はおばあちゃんと一緒に暮らす家にホームステイし、2カ月間はシェアハウスでいろんな国の学生たちと共同生活をしました。この経験を通して知ったのは、世代が違ったり話す英語も違ったりということです。おばあちゃんの英語は昔風で聞き取りづらく、若い人たちの英語は俗語も入ってくるので意味が分からなかったり。普段の生活でも、トラムはどうやって乗るのか、どこで降りたらいいのかも不安で……。慣れれば何ということもないのですが、最初の頃は新しい世界が一度に押し寄せて来たという感じでした。

思い込みを捨て、慣れていくこと

留学先では最初にテストを受け、自分に合ったレベルのクラスに分けられます。私が入ったのは下から二番目のクラスで、東南アジアを中心にさまざまな国・地域から学生が集まっています。その共通語が英語です。学内では英語以外は禁止で、母国語で話したら即帰宅という厳しいルールでした。ただ、みんな英語の発音が違うんですね。慣れるのに2週間ほどかかりました。授業も最初は難しいと感じ

ましたが、分からなければ先生がゆっくり話してくれ、英語に慣れてくると楽しくなっていました。難しいと思いついていたのです。

最終的には上から二番目のクラスまで進むことができました。上へ進むにしたがって、スピーキングが多くなります。文法を気にせず話すところから、センテンスとしてしっかり話すという方向へレベルアップしていくのです。プレゼンテーションはあまりなかったのですが、その代わりにクラスメート全員とコミュニケーションをとることをとても重視していました。一般に日本人は恥ずかしいと思いますが、他の国の人たちはスバズバと意見を言うようになってくるんですね。圧倒されました。でも慣れてくると、自分からコミュニケーションを取っていくようになるので、それが普通なんだと思えるようになっていったのです。

帰国して3年生になつてからは、英語でプレゼンをする授業が多くなりました。私は日本のプラスチック問題など社会的課題をテーマにしています。その一方で、就職活動を始めました。総合政策学部は1年次から就職関係の授業が充実し、3年次には「キャリア開発演習」があります。さまざまな業界の方々のお話が聞け、企業の人事担当者による模擬面接ではその場でフィードバックも得られます。私はホスピタリティーが重視されるホテルなど、サービス業で働くことが目標です。そこで英語を生かすこともできればと考えています。



「正しい」の中で自己発見・成長する 言語や文化の習得だけでなく、

杏林大学では学生間、教職員間の交流を促進するため、さまざまな海外の大学と協定を結んでいます。協定校数は現在15カ国・地域、55大学・研究所(2019年3月現在)。交換留学で、ベルギーのヘルモカレッジで学んだ矢萩雅弦さんと、杏林大学で学ぶ同カレッジのダニエル・アントウナさんに、留学で経験し感じたこと、お互いの国で経験したことなどを聞きました。

(司会) 木暮健太郎先生 通訳/三浦秀之先生

異文化の真つ只中に身を置く

——お二人はなぜ留学し、実際に留学してどんなことを感じましたか。

【矢萩】 語学留学ではなく、専門分野を英語で学ぶことを目的に5カ月間、ヘルモカレッジに留学しました。アジア人は少なく、日本人が2人、中国人が3人。他はイタリアやスイス、オランダ、ベルギー、スペインの学生たちでした。常に英語で話さなければならぬ環境でとくに感じたのは、ヨーロッパの学生たちは自分の「芯」を持っているということ。自分を表現しないと仲間に入っていけないぐらいの感じなんです。何とか自分を強くアピールして友達になり、さまざまな経験を共にできたこと、とても良い思い出です。

【ダニエル】 僕は国際経営を専攻しているので、国際都市であり日本のビジネスの中心地である東京に身を置くこと自体が貴重な経験です。東京で見ると、僕が祖母の妹が日



杏林大学総合政策学部
3年生
矢萩 雅弦 さん

本人と結婚しているの、日本にはずっと興味を持っていました。実際に来日してベルギーとは異なる文化に毎日、驚いています。休暇を利用して京都、大阪、奈良を10日間かけて巡ったのですが、隣接しているのに文化が異なり、いずれも魅力的なんですね。この旅は人生で最も濃密で楽しい時間となりました。また、ベルギーはビール文化の国ですが、ノンアルコールビールは日本で初めて見て、びっくりしました。

【矢萩】 ビールと言えば、ヨーロッパの学生は平日はしっかりと勉強をして、金曜日の午後から土日は思いっきりリフレッシュしますよね。まさにオンからオフに切り替わる金曜日の夜、学校でできた友人たちに誘われ、飲食店が集積したル・カレ地区で初めてベルギービールを飲みました。これが本当においしくて、みんなとビールの感想を言い合っている、パーティーが話しかけてきたのです。「日本に行ったことがあるんだよ」とカウンターから出てきた彼は、何と日本の酒屋の前掛け姿！ 意気投合して

盛り上がりましたね。以来、週末のリフレッシュとコミュニケーションはとても有意義な時間となりました。

インタラクシオンを重視した授業

——授業はいかがでしたか。矢萩さんはGCPで学んで留学しました。

【矢萩】 高校生までは「英語Ⅱ座学」と思っていました。GCPはまったく違って、ネイティブの先生のもとでとにかく話すんですね。質問も意見も英語で話さなければいけません。このような形で1年次から英語を学び、2年次で留学します。留学については先輩たちから経験談やアドバイスを聞いたので、留学に対する具体的なイメージを1年生から描け、2年生になったときにはヘルモカレッジで学ぶという明確な目標を持つことができました。

——ダニエルさんは日本で授業を受け、ベルギーとの違いを感じますか。

【ダニエル】 日本では今日の授業で何を学ぶのかが決まっています、先生の講義が中心です。それに對してヨーロッパでは、先生と学生とのインタラクティブな重視をしています。ディスカッションに熱が入り過ぎて先生が制御する場面もあるほどです。日本の場合、先生が学生から意見を引き出すことに苦心しているように感じます。

【矢萩】 確かに。ベルギーでは先生ごとに授業のスタイルがありました。例えば、ケーススタディーをどんどん挙げて、学生に質問を投げかけていく。すると、学生も自由に手を挙げて発言する。一緒になってクラスを作り上げているというイメージです。積極的に授業に参加しないと単位を取得できないということもありますが、学ぶ姿勢が日本とは違うなど感じました。

【ダニエル】 いずれにも長所・短所があると思うのです。日本の進め方のほうが先生はタイムマネジメントがしやすく、シラバス通りに教えることができます。一方、ヘルモカレッジでは学期の初めに分厚い教科書を買って、授業で使う分をすべて持って大学に通います。ただしディスカッションが多いので、結果的にその日の内容をカバーできなかつたり。また、1週間の学修量もベルギーは約30時間ですが、日本は約16時間とおよそ半分です。でもその分、自由な時間を持てるので、いろんな日本の文化に触れることができます。

恐れず、自信を持って挑戦する

——留学経験者として、留学にはどんな意味があると思いますか。

【矢萩】 異文化を自分の目で見て、体で感じられる

ことは言うまでもありません。そのうえで、一つは自分と向き合える時間が多いということがあります。初日の授業で実感しました。イタリアやスペインの学生たちが目の前にいるのに、自分から話に行けなかつたのです。いざとなると動けない自分が立ったのですが、次の瞬間、自分にはこんな気持ちがあつたんだと気づきました。それで積極的に自分を表現していけるようになったのです。

二つ目は、感謝する気持ちです。留学期間が残り1カ月を切った頃に強く感じるようになりました。費用面でサポートしてくれた両親であつたり、アドバイスしてくださったGCPの先生であつたり。また、しばしば他国の学生たちから「姿勢がきれい」「礼儀正しい」と褒められたのですが、それがヨーロッパにおける日本人のイメージなのだそうです。そのようなイメージを浸透させてきた日本人の先達の方々への感謝も湧いてきました。

【ダニエル】 留学の第一義は言語や文化を学ぶことです。それとともに重要なのは、「セルフヘルプスキル」を磨くことだと思つています。両親から離れて日本に来て、自分が為すことすべてに責任を取らなければいけません。それができる自分になることは、異国だからこそできる経験だと思つています。

——今後の目標、将来の夢を聞かせてください。

【矢萩】 一つは海外で働くことです。学んできたことを生かして海外でビジネスをしていきたいと考えています。もう一つは短期的な目標で、留学中にできた友達に会いに世界を旅したい。アルバイトで旅費を貯め、4年生のうちにバックパックで各地を巡る考えです。

【ダニエル】 僕は短期的には大学院まで修了したいと考えています。その後は、インターンシップで

仕事を経験したベルギーチョココレートの会社に就職したい。そこでビジネスを学んで自分の会社を起業し、世界にチョココレートを販売していくことが僕の夢です。

——最後に、留学を考えている学生にメッセージをお願いします。

【ダニエル】 「恐れずに」ということでしょうか。僕はまだ日本語を話せないのに、英語で話しかけることになりました。そのときに日本の学生が恥ずかしがって英語を話さなかつたりするのは、ちよつと残念かな。間違えるのは当然のことと思つて積極的になれば、必ず英語を話せるようになります。自分の英語にもつと自信を持つことです。僕自身も日本語の習得では同じ立場だと思つています。自分のコンフォートゾーンに留まっていたら世界観は広がっていきません。恐れずにチャレンジしましょう。

【矢萩】 同感です。自信を持って海外へ行ってほしいですね。現地に足を踏み入れた瞬間から環境が自分を作っていきます。英語のスキルアップはもとより、知らなかつた自分を知つたり、日本人とは違う考え方を知つたり、外から見た日本を体感したり……。その場に置かれたら人は変わります。その環境がヘルモカレッジにはあるので、ぜひ挑戦してほしいですね。



ヘルモカレッジ 4年生
Daniel Antuna さん

選挙啓発活動に参加して — 三鷹市・八王子市・羽村市での投票体験イベント

●木暮ゼミナール3年 原 拓海

政治を学ぶ私たち木暮ゼミは、選挙啓発活動の一環として、杏林大学と連携協定を結ぶ三鷹市、八王子市、羽村市において、投票を体験するイベントである「模擬投票」の企画・運営に関わってきました。それぞれのイベントでは、各市の選挙管理委員会事務局の方たちと一緒に企画を考え、実施してきました。

多くの方に投票してもらいやすいように、子ども向けにはご当地の「ゆるキャラ」、そして大人向けには、お薦めのスポットをピックアップし、投票してもらいました。とくに子どもたちは、なじみのある地元のゆるキャラへの投票ということもあり、楽しんで参加してくれている姿が印象的でした。

私たちが想像していた以上に、たくさんの方に投票してもらえたことは、いい意味での驚きでした。例えば、羽村市では産業祭という地域のお祭りでテントをお借りして、模擬投票を行ったのですが、2日間で1000票を超える投票がありました。準備から運営まで、いろいろと大変なことも多かったですが、その分、達成感や満足感を得ることができました。

これからも、私たち大学生の力で、楽しみながら投票を体験する企画を実施していきたいと思っています。



Mitaka Kichijoji PROJECTで 地域とのつながりを！

●藤原ゼミナール2年 金野 優花

私たち藤原ゼミ・斎藤ゼミは、地域貢献を目的としたMitakaKichijojiPROJECTの活動をしています。2012年の秋より、地域との関わりをより深めるため、井の頭キャンパス周辺の清掃活動を行っています。

現在は月に一度、土日のどちらかで朝10時から集まり、毎回15～20人程度の学生が自発的に参加しています。効率を高めるため、4ルートに分かれ、人通りの多い大通りや小中学校の通学路などを中心に回っています。活動中は、ゴミを拾いながら地域の方に挨拶し、明るい雰囲気楽しく取り組んでいます。

これまでの実績では、2018年に三鷹市で『環境活動表彰』を受賞しました。この表彰は、日頃の環境活動により、三鷹市民のために尽力し、地域へ多大なる貢献をされたと認められた団体が表彰されるものです。また、昨年12月には、大学と地域の情報交換を目的とした「三鷹市地域ケアネットワーク合同事業」に参加しました。普段交流のない地域の方や他大学の学生と意見交換ができ、貴重な体験となりました。多くの方から様々なアドバイスを頂き、今後の励みにもなりました。

今後は行政と協力し、ポイ捨て防止策の強化を目指していきます。具体的には、ゴミの多い箇所の統計をとり、ポイ捨て防止ポスター等の作成・掲示をしていきたいです。さらに、オリジナルの紙ゴミ袋の作成や、SNSを用いた積極的な情報発信を企画・進行しています。



まちの魅力発信！ 人と地域をつなぐ情報誌「みたから」

●進邦ゼミナール3年 山口 由将

進邦ゼミナールでは、アトレヴィ三鷹さん発の地域メディア『みたから』の編集に携わっています。地域のお店やスポット、人を紹介させていただいています。

2016年フリーペーパーとして誕生した『みたから』第1号から、編集作業や取材記事の編集を行ってきました。わたしたち3年生は、三鷹周辺の大学学食の取材記事をまとめる形で、フリーペーパーの『みたから』にも関わることができました。2019年春からは、webマガジン『みたから』にリニューアルし、「杏林生のまち歩き」として地域のおすすめスポットやお店などを紹介してきました。

わたしは、2019年夏に大沢にある国立天文台三鷹キャンパスを取材する機会を得ました。普段から一般公開されていて、取材にお邪魔した日には、雨模様だったにもかかわらず、多くの見学者が訪れていました。実は、三鷹キャンパスでの天体観測はほとんど行われておらず、現在では太陽の観測を行っているくらいであるとか、広大な敷地のキャンパス内には、古墳があるとか、取材に行つて初めて知ることも多くあります。取材前に事前調査もしていきますが、地域の秘密を知ることができたようで、ちょっぴり嬉しくもあります。



※現在はWEB版となっております。

被災地の夏の夜空を照らす野外映画上映会

●三浦ゼミナール2年 幹事長 濱村 柊那

三浦ゼミナールでは、東日本大震災において大きな被害を受けた宮城県石巻市において、震災後におけるコミュニティの復興支援を継続的に行っています。今年のプロジェクでは、被災地における地域コミュニティの深化のため、夏祭りを通じてまちの復興を応援することを目的として、8月4日にコミュニティセンターの「川の上・百俵館」において夏祭りを行いました。

夏祭りでは、当初考えた目的を念頭に、予算の制約がある中で、それぞれ企画を立案し、「地域の方々と一緒にキャンドル作り」、「スカイランタンの実施」、「野外映画上映会」を実施することになりました。自分たちの思いをどのように伝えるのか、安全にプロジェクトを遂行するにはどうしたらよいかなどが課題となり、ただ単に企画を実施する以外のことも検討しなくてはなりませんでした。

まず、キャンドル作りでは、自分たちで手作りができるか試作を繰り返しました。予算を抑えるために、材料をできるだけ自前で調達するなど工夫をしました。スカイランタンは、実施に向けて調査する中で、火を使用した打上げは法律や安全性の面で問題があり実現が難しいことが判明したため、LEDを使用したスカイランタンを制作することが決まりました。しかし、通常の風船では浮力が足りず、想定通りに飛ばすことができず、試行錯誤を繰り返しました。野外映画上映会は、そもそも映画に著作権があることから、映画配給会社に連絡を取り著作権の交渉を実施し、その中で地域の方たちが喜んでいただけそうな映画コンテンツの選択などが事前における課題でした。地域の小中学生に事前にアンケートやヒヤリングを実施し映画の作品は決定しました。野外で映画を上映するうえでも様々な点を乗り越える必要があり、そうした課題をクリアした中で迎えた本番も、会場整備やセッティングなど当日も大慌てでした。

今回のプロジェクトの特徴として、プロジェクトの実施予算を、クラウドファンディングを通じて寄付を募ったことにあります。企画の趣旨や目的だけでなく、そのゴールやビジョンに共感していただいた多くの方からご支援いただき、プロジェクトを実施するための予算を集めることに成功しました。また、これまでプロジェクトを実施してきた先輩方の反省に基づき、当日円滑にイベントの運営が実施できるよう、事前に綿密な「運営マニュアル」を作成し何度も読み合わせを行い、マニュアルの改定を繰り返し、入念に準備を進めました。

このように、多くの方々からご尽力をいただき、夏祭りは、大成功で終わることができました。夏の暑い夜の広場に、事前に地域の方々と一緒に手作りしたキャンドルやスカイランタンなど様々な光を灯すことができ、とても幻想的な雰囲気の中で、野外映画上映会を実施することができました。ご来場していただいた方から帰り際に「ありがとう」とお声掛けいただき頂き、手探りの状況から始めたプロジェクトでしたが、来場して頂いた方に楽しんでいただけたようで本当に良かったと思いました。例えば小さな企画であったとしても、そのプロセスのなかで様々なことを検討し、実行可能なプランに落とし込んでいく必要があり、その難しさをあらためて痛感しました。今後は、この活動で得た様々な教訓を自身の取り組みにおいて活かしていきたいと思ひます。



北 島ゼミでは、先生のご研究テーマの1つである保健医療サービスへのアクセス(利用可能性)の改善に関連し、年間を通じて、HIV/AIDSの情報提供のための学外活動を行っています。2019年度は、3回にわたり、学生が大活躍しました!

HIV/AIDSの予防には、まずは病気の感染経路、罹患後の状態を知ってもらうこと、一般層に加え、若者・女性・MSM(男性間性交渉者 Men who have Sex with Men)にも配慮したHIV予防のメッセージを発信すること、HIV検査の受検を促進することが重要です。

「若い世代に一番伝えやすいのは、まさに、同世代の我々だと思う」、「これを機に一度検査に行ってみるといい方いたので嬉しい」、「小さい子からお年寄りの方まで幅広い年齢層の方々に伝えることができた」といった学生の声は、充実感に満ち溢れています。

北島ゼミの皆さん、これからもこの活動を通して、1人でも多くの方に感染予防の重要性を伝えていってくださいね!



◀5月には、八王子駅前で開催された第14回学生天国において、八王子市保健所の保健師の方々と一緒にHIV/AIDSに関するクイズ、恋愛シミュレーション、コンドームの配布などを通して、HIV/AIDSに関する情報提供を行いました。



▲12月には、12月1日の世界エイズデー(World AIDS day)の周知のため、6月同様、「HIV検査普及週間」街頭キャンペーン(エイズ予防財団主催)に参加しました。



◀6月には、渋谷駅ハチ公前広場で開催された「HIV検査普及週間」街頭キャンペーン(エイズ予防財団主催)に参加しました。参加者総勢70人の参加者と一緒には、HIV/AIDSに関する資料やコンドーム3000セットを配布しました。

2019年7月、川村ゼミと三浦ゼミで、持続可能な開発目標 (SDGs) の理解を深めようと、金沢工業大学が開発したThe SDGs Action cardgame「X(クロス)」を使って、ワークショップを開催しました。

このカードゲームは、SDGsの目標に関連する問題を、イノベティブなアイデアを創出して解決する参加型クラウドゲームです。川村ゼミが、ゲーム進行を担当、三浦ゼミが、会場設営などを担当して、互いに交流を深めることができました。また、2つのゼミでゲームを行うことで、競い合っ、よりイノベティブなアイデアを出すことができ、とても盛り上がり、楽しいひと時が過ごせました。

このワークショップをきっかけに、SDGsの理解とゼミ間の交流が深まり、なにか自分たちでもSDGsの問題解決に向けたアクションを起こしていければと思います。



～学生発表会を振り返って～

テーマ：「加速する免許離れ」

●半田ゼミナール3年 山田 菜生

半田ゼミナールでは、12月8日に開催された「第11回大学コンソーシアム八王子学生発表会」に2グループ出場してきました。これは八王子市にある(あった)大学のゼミ研究活動を、課題解決・提案型のプレゼンテーション形式で発表し、他の方からコメントを頂く発表会となります。

私たちのグループでは、若者の自動車離れに着目して、なぜ若者が運転免許証を取らないのかということ进行分析しました。その上で、どうしたら若者が運転免許証を取りやすくなるかということをご提案しました。

ゼミの時間では、何度も事前発表を行い、お互いに改善点や不明点があれば指摘し合いました。またプレゼン後の質疑応答に備え、質問内容の予測等も行いました。

発表当日は他大学の方も参加されていて、適度な緊張感がありました。私のグループでは、日頃練習した成果が発揮できたのか大きな失敗はなく、質疑応答も柔軟に対応できたと感じています。

また、待ち時間は他の方の発表を拝聴し、話し方やプレゼン力が勉強になったのは勿論のこと、着眼点や独創力あるものが多く、今後の研究に生かせる要素が多くありました。

この学生発表会への参加を促し、アドバイスを下さった半田先生、プレゼン練習に遅くまで協力してくれた半田ゼミのメンバー、ありがとうございました。



テーマ：「New Style 防災」

●半田ゼミナール3年 中島 彩美

私たちのグループは、八王子市の防災対策の現状を改善しようと、新しい提案を考えてプレゼンをしました。

八王子市は土砂災害が発生する可能性が高いにも関わらず、非常食の賞味期限切れや防災グッズの劣化等を理由に防災対策が進んでいない状況でした。それを解決すべく、私たちは、企業側が防災グッズを管理し必要な時に貸し出してくれる「レンタル式防災グッズ」や、定期的に非常食を配達してくれる「定期式非常食」を考案し、『New Style 防災』として八王子市に提案したのです。

本番当日の会場は、12名の審査員と八王子市長の前でのプレゼンを許可されたということもあり、緊張感が漂っていましたが、私たちのチームはそんな空気に圧倒されることなく、堂々とスムーズな発表ができたと思います。

結果的に優秀賞や特別賞などは貰えませんでした。自分たちの満足のいくプレゼンができ、さらには企画が認められたことで、奨励賞をいただくという貴重な経験をすることができました。

私は今回のコンソーシアム八王子を通じて、チームで協力して目的を成し遂げる為の協調性を得ることができました。またこの経験を自信にし、社会に出た時に役立てていきたいです。



～ 学生発表会を振り返って～

「八王子発の市民ミュージカル －歴史遺産「八王子千人同心」の活用－」

●田中ゼミナール3年 宇津木 大河

夏休みから始めた研究発表テーマへの取り組みが、準優秀賞という形で成果となったことに非常に達成感を得ることができました。当日の発表も入念な準備を行ったことで、緊張することなく、胸を張ってできたと思います。しかし、活動を終えて冷静に思い返すと、反省点は少なくありませんでした。特にメンバー間の役割分担が上手にできていなかったことです。特定の人への負担が大きくなりすぎたり、チームとしてももう少し機能できればというところがあったと個人的には感じています。でも、個々人の頑張りがうまく重なり合い、結果を残せたのだと思います。もしもこのような機会がもう一度あるならば、グループメンバーに対する気遣いと、余裕のある日程調整を意識することで、より良い集団作業が可能となるに違いありません。今回の経験をさまざまな場で生かせるようにしていきたいと考えています。

「女性就業促進のためのコワーキングスペース」

●田中ゼミナール3年 工藤 大弥

発表当日、会場には他大学の学生や審査の先生方、そして八王子市役所の方々が集まり、非常に緊張感が漂っていました。私は、台本を見ながら話すか、見ないで話すか、二つの選択肢がある中、結局、発表直前になって後者を選択しました。落ち着いて話せた反面、途中で止まってしまう場面もあり、何度も「こうすればもっと良い発表になった」と感じました。他のグループの発表を見ると、完成度が高く学べる部分がたくさんありました。少し後悔はありますが、計画して行動し、そして反省したことを、次に活かすことができれば、今回の発表会に参加したことに大きな意味を持たせることができると思います。長期的な計画の中、メンバーや先生と試行錯誤しながら研究に励んだ過程は貴重でした。そして、本番の際に自分なりにチャレンジできたことは良い経験になりました。ぜひ、後輩たちにもこのイベントに参加してほしいと思っています。

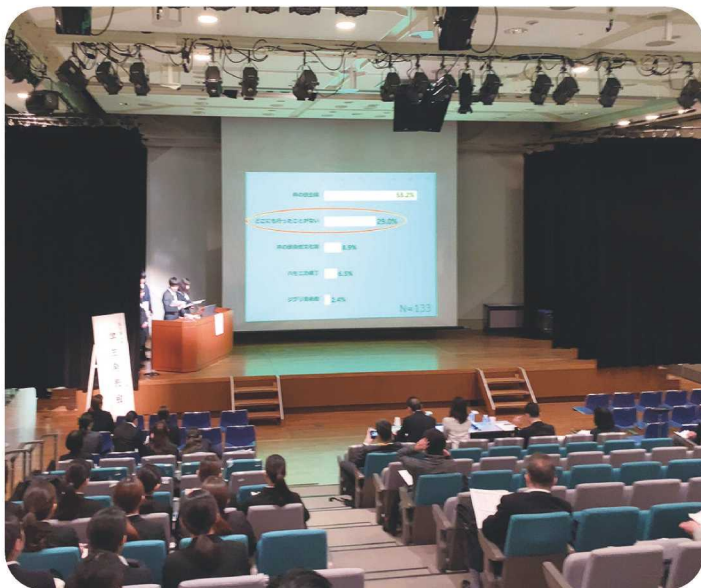


コンソーシアム八王子の発表会を終えて

●木暮ゼミナール2年 天川 涼帆

9月から始まった発表までの道のりは、決して平坦ではありませんでした。初めは皆が別々の方向を向いていて、何を狙っているかすらも曖昧でした。私たちのチームがひとつになれたのは発表当日ギリギリでした。そこからは「自分達の作品を最高レベルまで上げよう」と一致団結して作品の仕上げに取り掛かり、当日の発表では賞こそ取れなかったものの、発案当初では想像できないほどの仕上がりになっていました。

今回のプレゼン大会で、私個人が抱いた感想は「達成感」よりも「後悔」です。もしもっと早い段階でチーム全員が同じ方向を向いていればより良い作品ができていたと私は考えています。これから私たち木暮ゼミナールは、新たな後輩を迎え入れます。その後輩達に今回の悔しさ、そしてその要因を伝えることがこれから私たちにできる事だと私は考えます。「私たちの代わりに後輩たちに頑張ってもらおう」のではなく、「後輩たちと『共に』頑張っていく」というのが、これから私たちがすべき事であると認識しています。



学生広報スタッフの活動について

総合政策学部4年 三村 泰成

私は、昨年からはまった学生広報スタッフ「MITAI×INOKASHIRA(ミタイノカシラ)」のリーダーを務めています。学生広報スタッフは、総合政策学部、外国語学部、保健学部の学生たちが集まり、学生目線で高校生に向けた広報活動を行っています。とくにオープンキャンパスでの学生相談やキャンパスツアーの企画運営などを担当しています。

そして、2019年11月30日(土)に行われたオープンキャンパスでは、私たちが企画した「ナイトオープンキャンパス」が行われました。17時から19時までの間、学生広報スタッフが主体となり、高校生や保護者との懇親会、ゼミナールや留学体験談の紹介を催しました。その後、高校生と一緒にナイトキャンパスツアーをし、最後にはカウントダウンとともにイルミネーション点灯式をおこなって井の頭キャンパス全面に明かりをともしました。

高校生や保護者の方からも、「とても印象的だった」、「イルミネーションが美しく感動した」といった好意的な感想を聞くことができ、私たちとしても安心すると同時に、少しの自信も得ることができました。今後も、さまざまな企画を考え、実施していくことで、より多くの高校生たちに大学の魅力を伝えていきたいと思っています。





3組 渡辺・加藤プレゼミナル



1組 田中・藤原プレゼミナル



4組 岡村・長谷部プレゼミナル



2組 齊藤・高田プレゼミナル



5組 半田・尾崎プレゼミナル



9組 Malcolm・三浦・伊波プレゼミナール



6組 木暮・島村プレゼミナール



10組 Joel・北島・松井プレゼミナール



7組 川村・大西プレゼミナール



8組 北田・糟谷プレゼミナール



大川ゼミ

日本経済に関するテーマを自分で選択し、調査研究を重ねて行うプレゼンテーション。仲間や先生との討論を経て、より充実した内容にしていき、最終的には卒論に纏め上げていく。その過程では、リサーチや論文作成等の技術的な訓練に加え「生きた経済」を体感するための株式市場模擬投資、外部見学、そして度重なる(?)懇親会、と様々な体験が待っているゼミです。就活にも熱心で、先生からはキャリアサポ通いを半ば義務付けられます。「卒業時には立派な社会人」が目標です!



伊藤ゼミ

会社及び会社法に関する研究を行っています。会社をめぐる環境は、日々変化しており、法規制も大きく変動しています。会社法や金融商品取引法の改正といった法令の変化、各種の企業不祥事の発生、敵対的買収や企業再編といった実務界における動向等を、具体的事例を取り上げながら研究しています。各自が興味を持ったテーマを調べ報告し、みんなで検討しています。また、推薦図書を紹介しあい、多くの本を読むことを心掛けてもいます。



大西ゼミ

憲法を研究テーマとする大西ゼミでは、春学期には平和主義や憲法改正などの近年注目を集める憲法問題を扱う文献講読を行い、秋学期では学生の希望を取り入れつつ、資格試験(本年度は法学検定試験)の合格に向けた学修を行っています。2019年度に開講したばかりの新しいゼミなので、今後もより良いゼミに向けてさまざまな取り組みを行っていききたいと思います。



伊波ゼミ

伊波ゼミでは、グローバルな社会で何が起きているのか、という視点から学生と教員が一緒になって様々な課題について学びます。ゼミ生の関心に応じて多彩な問題を取り上げて、発表や討論を行います。実践的な視点を養うために、フィールドワークやゼミ合宿を行っています。また、皆さんがグローバルに活躍できるように、社会に出てから役に立つ様々なビジネススキルについても身に付けていただきたいと思います。ゼミ生の企画によって、様々な楽しいイベントが行われています。



小田ゼミ

小田ゼミでは、経済に関する幅広いテーマを題材として、考える力と伝える力を高めるトレーニングを行っています。先生の研究分野は金融ですが、それに限らず、ゼミ生の関心に応じて多彩な問題を取り上げて、発表や討論などを行います。個人課題やグループワークを通して経済のセンスを磨き、社会で活躍するための土台を築くのが目標です。また、ゼミ生の企画によって、校外見学会や合宿に出かけたり、親睦会を開催したりと、みんな で元気に活動しています。



大山ゼミ

大山ゼミは、発足して間もないゼミです(2018年秋学期に誕生しました!)。2年生のゼミ生は10名で、3年生のゼミは全部で7名です。ゼミ生同士大変仲が良く、互いに切磋琢磨して日々勉学に励んでいます。大山教授は、現在、総合政策学部で、刑法総論・刑法各論・刑事訴訟法・医事法を担当しておられますが、ゼミで討議する内容も、これらの学問領域にまつわるものが大部分です。最近、2年生のゼミでは、財産犯の保護法益や感染症予防法につきディスカッションしました。



糟谷ゼミ

糟谷ゼミでは、毎年、工場見学に行っています。今年度はシステムキッチンメーカーのNASLUCK(ナスラック鎌倉工場)に行きました。ナスラック鎌倉工場では材料のリサイクル100%を達成するなど、効率化・環境への取り組みなど様々な工夫について丁寧に教えていただきました。日頃、私達は店頭で売られている商品などにしか目がいかないことが多いですが、このようなモノづくりの現場を見ることで、多くの企業の活動を想像してもらいたいです。



岡村ゼミ

国内外における福祉施設や近隣の交流サロン等での福祉ボランティア活動を企画・実行しつつ、社会福祉のあり方について考えています。また、福祉を含めた様々な分野でその効果が報告されている「マインドフルネス」についても学んでいます。「マインドフルネス」は、集中力や気づく力、セルフケア力の向上を目的としたメンタルトレーニングの一種で、社会生活におけるその様々な活用方法を研究しています。



北島ゼミ

日本や諸外国の様々な保健問題に関して勉強するゼミです。今年度は、米国の大学で使われている国際保健学や公衆衛生学の英文の教科書を輪読するグループと、国内外の健康問題やSDGs(持続可能な開発目標)について調査するグループに分かれて活動をしています。また、毎年5月に八王子市で開催される合同学園祭「学生天国」やエイズ予防財団の街頭キャンペーンへの参加を通して、HIV感染予防に関する啓発活動も行っています。



加藤ゼミ

動物病院の経営、日本の中古家電の海外輸出、伝統工芸品の販路拡大、アパートの経営、家業の継承、公的資格の取得、海外留学など、将来の目的や挑戦したいことを異にする学生が、その実現に向けた勉強をし、その成果を報告しあうことでメンバーの知識が増えていくことを目指しています。春・夏季休業中も特訓授業がありスパルタゼミといわれることもあります。素直で、向上心や行動力がある、素敵な学生に恵まれたゼミです。



北田ゼミ

北田ゼミでは、個人や家族に関する法律問題(家族法)に加え、学生の興味に応じて、民法の財産法、憲法、刑法、社会保障等の関連分野についても勉強しています。本年度は、将来の職業を考えるきっかけとなるよう資格試験の勉強にも取り組みました。まだ新しいゼミなので、みんなで楽しみながら、ゼミの方向性を少しずつ作り上げている最中です。今年は学園祭で初めて屋台に参加し、フライドポテトの販売を頑張りました!



川村ゼミ

川村ゼミナールでは、国際法、国際協力の分野を中心に、国際社会で生じる様々な問題について考え、議論します。具体的には、国際的な時事問題を調べて報告したり、テーマを決めてグループワークやディベートを行います。今年の春学期は、持続可能な開発目標(SDGs)、秋学期は、難民問題についてグループワークをしました。また、SDGsのゲームをつかったワークショップを行ったり、豊洲市場、東京税関、東京出入国在留管理局の見学にでかけるなど、様々なゼミ活動に積極的に取り組んでいます。



島村ゼミ

島村ゼミでは、「大学とは、学問を通じての人格形成の場である」というある哲学者の言葉をモットーとしています。そのため、毎週毎回のゼミナールをとても大切にしています。毎週、学生たちは、本か論文を読み、交代でレジュメを作成して、プレゼンテーションを行います。その上で、質疑応答の議論をみんなで展開します。同時に、自分自身が関心を持った新聞記事を紹介し合います。また、「インターカレッジ」の学生セミナーに積極的に参加します。準備は大変ですが、他大学の学生と交流を深めることができます。



木暮ゼミ

木暮ゼミでは、選挙での出口調査、模擬投票イベント、学外でのプレゼン大会出場、学園祭での模擬店、八王子コンソーシアムの学生発表会への出場など、かなり多様な活動を行っています。また、企業訪問、羽村市での各種イベント（産業祭など）にも関わるなど、学内にとどまらず、学外に積極的に行っています。社会人との接点を持ちながら、学生に多くの経験をしてもらいたいと願っています。



進邦ゼミ

進邦ゼミでは、3学年が縦割りでゼミナール活動を行っています。キャンパス周辺のまちづくりや、夏合宿で訪れる台湾のコミュニティやまちづくりについての研究を行っています。台湾では、古都台南と首都台北を訪れましたが、現在でも日本統治時代の建物が多く残っており、リノベーションでカフェや博物館などに転用されています。地方創生や再開発が進む日本にも、学ぶべき点が多くあります。



斉藤ゼミ

斉藤ゼミでは、資源や環境の問題について学んでいます。個人発表やグループワークのほか、工場見学などもおこない、さまざまな形で資源や環境の問題に触れています。今年のゼミ合宿は香川県高松市でおこない、研究発表のほか、小豆島を訪れました。全ての学年が一緒に勉強するため、同じ学年だけでなく、上下のつながりも強いのが、このゼミの特徴です。先輩たちの後輩の面倒見も良く、勉強だけでなく、さまざまな活動を通して、みんなで楽しく学んでいます。



知原ゼミ

当ゼミでは、租税法を柱にして、社会経済を取り巻く多様な分野の課題を通して、調べる力、考える力、発信する力を養うことを第一に目指しています。また切磋琢磨ができるような、社会人になっても続くような、いい友が得られる機会になることを願っています。本年度は日経新聞の経済教室に掲載された論文記事を毎回一本ずつ読んでいます。「消費税と所得税、どう違う」「おもてなしの心、生産性は」「忠誠心が業績を上げるか」などにつき熱く討議しています。



高田ゼミ

高田ゼミでは、簿記や企業分析、議論の組み立て方などを学んでいます。資格取得のための勉強だけではなく、大企業の経営戦略やM&A、業績不振など、ニュースを会計情報から読み取る面白さも実感してほしいと思っています。ゼミ生は各学年10人前後で個性もさまざまですが、それぞれ自分の得意分野を生かしつつ、協力して勉強しています。今年度は残念ながら台風で合宿が中止になったので、来年の合宿は2年分の勉強と観光をする予定です。



内藤ゼミ

内藤セミナーは2019年度、4年生3名、3年生14名、そして2年生11名の合計28名で、会計学の領域を楽しく、そして厳しく研究しております。ゼミナールでは普段の活動に加え、夏合宿(福島)、杏園祭参加、OB会、冬合宿(新潟)などの行事があり、「多くの時間と空間を共有することが団結を生む!」を motto に、勉学にも、行事にも全力投球で活動しております。楽しく、厳しく、ウエットな人間関係を築いています。



田中ゼミ

企業経営についての著書の輪読を行い発表と討議を行います。本年は『ストーリーで学ぶマネジメント～組織・社会編』をテキストに使用しています。人前で意見を述べることや、パワポの発表などにも慣れてきています。また、大学コンソーシアム等のさまざまな発表会にも挑戦しています。コミュニケーション能力を向上させ、ゼミ員の「就活力」を高めることも重要な目的です。



原田ゼミ

2年生、3年生の演習では、日商簿記検定を目指した勉強に励んでいます。4年生の演習では卒業論文の個別指導を行っています。今年度は、2月に2泊3日の日程で、恒例の簿記大会、東京五輪の開催をテーマとしたディベートなど、内容盛りだくさんの冬合宿を行う予定です。今年度の原田研究会は、特に簿記検定や会計ビジネス検定など、会計に関する資格をとるという目的意識をはっきりともった意欲的な学生が集まっています。



西ゼミ

西ゼミナールでは、教科書を用いて、毎回担当者(3年生)がレジュメと共に内容について報告を行います。これに対して、学会で行われる方式を取り入れて、メンバーを代表してコメントがなされますが、このコメンテーターはその日くじ引きで選ばれます(汗)。その後に全体の質疑応答を経て、グループディスカッションを行い、論点を検討・整理します。



半田ゼミ

半田ゼミでは、近現代の日本政治について研究することを目的としています。二年生は、社会問題を題材としたプレゼン大会に出場する準備や、政治学に関する書籍の輪読、ニュース検定の資格取得をおこなっています。三年生は、時事問題に関するディベートやグループディスカッション、卒論作成に向けた研究をおこない、交代で発表をしています。四年生は、卒論の添削作業を中心におこなっていますが、各人の就活指導もしています。



長谷部ゼミ

長谷部ゼミは、主に企業組織の内外の社会現象を、社会科学の観点から勉強しています。近年は文献講読のパート(2年生は必須、3・4年は希望者)と研究発表の時間(主に3年生・4年生)とに分けてゼミ活動を行なっています。個々のメンバーは、学ぶ時には学び、楽しむ時には楽しむというメリハリのついたゼミライフを送っています。「一匹狼」的なキャラの濃い学生が多いですが、皆、和やかな雰囲気でも活動しています。



松井ゼミ

日本や米国の政治・福祉・社会保障などを中心に勉強しています。普段のゼミでは、基本的な文献から専門的な研究論文まで幅広く輪読し、担当者による内容報告とそれをもとにしたディスカッションを中心に進めています。それに加えて、自ら調査したり、論理的に議論する力を鍛えるために、ゼミ内でのディベートの練習も行っています。まだ新しいゼミなので、これからも様々な取組みにチャレンジしていきたいと考えています。



マルコムゼミ

My seminar for second year students is initially (third semester) focused on studying or working abroad, which is strongly encouraged for all GCP students. Students not studying abroad in the second semester of their second year (semester four) will need to present a topic each week in English. These topics should be focused on the speciality courses that are taught in English. The objective is to better prepare students to engage with the courses in the advanced studies. Third year students will investigate a topic and present the information. Students will be required to present evidence and discuss questions. We will also consider opportunities for Japanese organizations based on experiences abroad. Third year students may also be expected to mentor other students on study abroad matters. Students may need to plan workshops for Kyorin Festival. Fourth year students will be expected to complete a Graduation thesis in English.



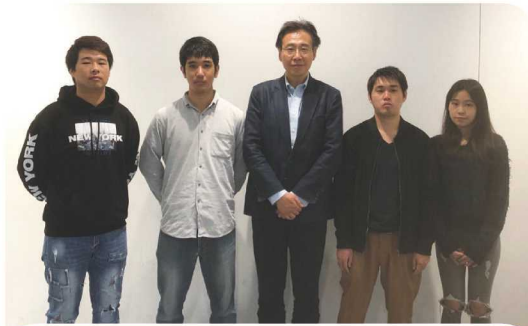
松田ゼミ

日本の文化・法制・政治について、歴史的なアプローチを通して理解を深め、日本人が創りあげてきた社会の本質を考えることを目的としています。現代社会は電子化された情報が氾濫していますが、人間の手によって作られた生の史料や歴史的景観のなかに身をおくことで、資料の信頼性についてあらためて考えを深め、史料批判や史料操作の方法を学びながら、その知識を活用して卒業論文の執筆ができるよう、指導しています。



藤原ゼミ

私の専門領域は、民法(法人・不法行為法・家族法)です。具体的には公益法人法制、消費者法、祭祀財産の承継などに興味関心をもって研究・教育を行っています。法律の勉強は各種資格試験・公務員試験等においても必要とされるものです。ゼミでは各種試験の対策指導と学問的な深化をそれぞれの希望にあわせて行っています。藤原ゼミには例年、意識の高い学生が所属しており、就職実績においても素晴らしい成果を残しています。



劉ゼミ

日本社会をよく理解したうえで国境を越えて活躍する人間を育てることを目標とする。政治学、国際政治学の勉強はもちろん、日本社会及び国際社会のさまざまなテーマを取り上げて研究する。たとえば2018年度のテーマは首都圏の華人社会である。ゼミ生の自主企画を奨励する。ゼミ生は勉強チームをつくって毎週英語を自主的に勉強する。毎年新ゼミ生の歓迎会、外国人訪問学者・留学生との交流会、仲秋親睦会、忘年会等を開催しゼミ生同士の友情が深まることになる。



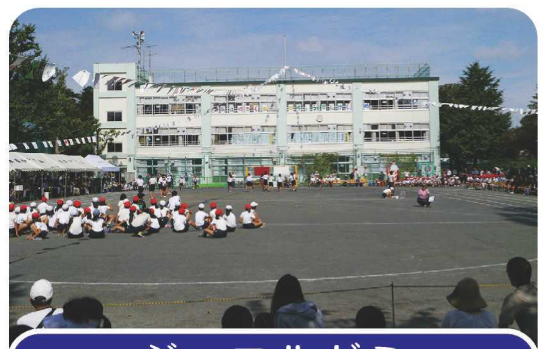
三浦ゼミ

国際政治経済学を中心とするゼミです。2年生では、専門的内容に入る前に論理的思考を鍛えるためプロジェクトを通して課題解決力を高めます。3年生では専門的な論文の輪読やアジア各国の国際政治経済を研究調査することを通して知識の理解に努めます。その後、3年生から4年生にかけて卒業論文の執筆にあたります。夏の合宿では、2年生は宮城県石巻市の被災地、3年生は米国ロサンゼルスにおいて海外合宿を行いました。



渡辺ゼミ

日本人として必須の東アジア政治・軍事・国際情勢の基礎知識を学んだ上で、時々の多様な国際問題について報告や議論を行います。また、実体験を通じた国際センス向上も重視し、年一回は海外合宿を実施しています。知識以外に社会で通用する基礎知力である、情報の収集・評価能力、説明力や討論力等の訓練を重視しています。ゼミの雰囲気は基本的に自由ですが、手を抜いた報告には容赦のないツッコミや「やり直し」が待っています。



ジョエルゼミ

This is a new seminar where students who are planning to become teachers will investigate the relationship between current social trends and the educational system. Students will develop an understanding of the role of a teacher in our society. Adolescent Psychology and cognition, learning patterns of teens, and the needs of students outside of the norms, such as ADHD and students who want to withdraw from society, will be considered as students learn to plan effective lessons. CLIL methodology and how it contributes to effective teaching for students entering a global society will also be a focus of research.



国内

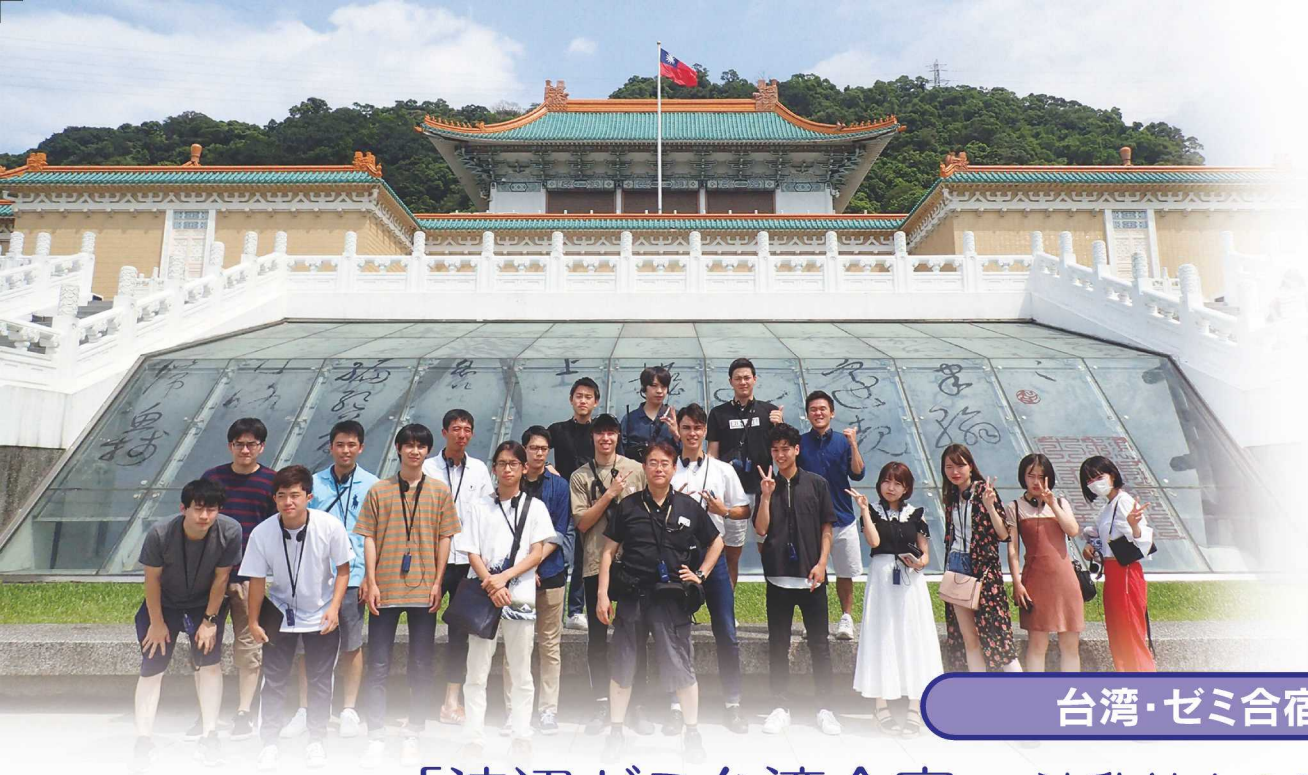
神奈川・ゼミ合宿

「長谷部ゼミ夏合宿に参加して」

長谷部ゼミナール 3年 坂本 圭

我々長谷部ゼミは、神奈川県三浦半島で1泊2日のゼミ合宿を行いました。この合宿の目的はただ一つ、それはみんなで仲良くなることです。ゼミ合宿まで2、3、4年生が顔を合わせることはありませんでしたが、ここで初めての顔合わせをします。ホテルに着くとまず班分けをし、自己紹介が始まります。各班には各学年と生徒の性格を鑑みて先生が配分してくれるので、必ず気の合う人が見つかります。自分の場合は今年入ってきた2年生と意気投合しました。自己紹介が終わると各班でこなす課題の発表です。各班で課題図書を読み、その内容をまとめて発表するといふものです。自分の班はスニーカーを通して社会を覗くという面白い本で、スニーカーという一つのファッションツールを通して、その時代の若者が何を考え、何を訴えたのか、またその時代にどのような社会問題が実在したかを探求する内容となっており、読み応えがあり議論が白熱する内容でした。課題が終わると今度はバーベキューです。幸いゼミ生はみんな成人を迎えていたので、炭で焼いた香ば

しい魚介類や脂の乗ったお肉と共に、各々の好きなお酒と一緒に楽しみました。お酒の席では先輩後輩の垣根を超えて混じり合い、楽しい思い出になりました。新入生もそれぞれ気の合う先輩方を見つけて馬鹿笑いをしたり共通の趣味の話をしたりなど、このバーベキューのおかげで一層、僕たちは長谷部ゼミの仲間なんだ、という意識が強くなりました。次の日の課題の発表はゼミ生Nさんの班に驚かされました。もちろんそれぞれの班のレベルも高いのですが、Nさんの班は紙芝居を作り非常に理解しやすく、内容もレベルの高いものでした。それぞれの班がパワーポイントを作成したり、レジュメを作成したりなど個性の出る結果となり、実りあるものとなりました。最後にこの合宿を企画してくださった長谷部先生に感謝をしたいと思えます。この合宿のおかげでより一体感が出て、その後のゼミ活動もとても良くなったと感じております。来年も新しい仲間とゼミ合宿で仲良くなり、より良いゼミにしていけたらと思います。



海外

台湾・ゼミ合宿

「渡辺ゼミ台湾合宿 ～波乱続きの5日間」

2年渡辺ゼミ生一同

私たち渡辺ゼミでは、国際関係を勉強しています。実際に海外事情に触れるため、毎年夏休みに海外合宿に行っています。スケジュールがどうしても合わなかった人以外、2年生と3年生は全員参加です。今年は4泊5日で台湾の台北市でした。

台湾は中国に呑み込まれるのを抵抗している民主的な親日国で、地政学的に日本にとって重要な国であると、先生から事前に説明されていました。ゼミのテーマ的にもとても興味があります。それに、一昨年行った4年の先輩から、B級グルメや面白い体験を聞いていたので、こちらもとても楽しみにしていました。

日本時代の総督府をそのまま使っている総統府（大統領オフィス）の館内見学では、最近120年ぐらいの台湾の歴史を学ぶことができました。館内解説をしてくれた年配のガイドさんは多分日本時代の経験者で、日本語ペラペラでした。私たちよりも日本の歴史に詳しくて愛着を

持っていたので、歴史的な日本との絆を実感しました。

総統府のすぐ近くには、二つの異なる歴史観を代表する施設がほとんど向かい合って建っています。一つは、戦後に中国からやって来て、台湾を独裁支配した蒋介石總統を称え祭る中正紀念堂。もう一つは、蒋介石が台湾市民を大弾圧した二二八事件の犠牲者を慰霊し、その後の民主化を記念する台北二二八紀念館です。私たちはこの両方を見学しました。台湾の歴史と中国との関係の複雑さを改めて考えさせられました。

実は今回の合宿では勉強したこと以外に、大波乱が起きて一生の記憶に残るものになりました。なんと台風と地震の二つ同時に遭遇してしまつたのです。旅程を急に組み替えたり、ホテルが断水したりで大騒ぎです。結局実際の被害はほとんど無かつたので、大きなイベントぐらいの感じですが、先生と添乗員さんはなんだか疲弊しきっていましたけど。



「杏園祭」 今年の悔しさは来年へ

2019年度 杏園祭実行委員会 副委員長
総合政策学部 総合政策学科 3年

長屋 佳奈

2019年度は「時代」をテーマに、約一年という歳月をかけて準備して参りました。80名以上の委員が4つの局に分かれて準備を進めていましたが、今年度は台風19号の影響に伴い中止という結果となってしまいました。ご来場予定だった方々や協賛企業様に成果を披露できず悔しい気持ちでいっぱいです。ご協力いただいた皆様にはこの場を借りて御礼申し上げます。

実施予定日の後、準備が全て無駄になるのはあまりに残念という思いから、実行委員のみで“ミニ杏園祭”というものを行いました。ミスコンやバルーンランドなど実施予定だった企画をお互いに披露し合い、楽しみました。一年間の準備も含め非常に貴重な経験をすることができたと考えております。

中止になった悔しさをバネに、来年に最高の杏園祭が実施できるように邁進して参ります。次回の杏園祭は、2020年10月10日、11日の開催を予定しておりますので、皆様のご来場を心よりお待ちしております。





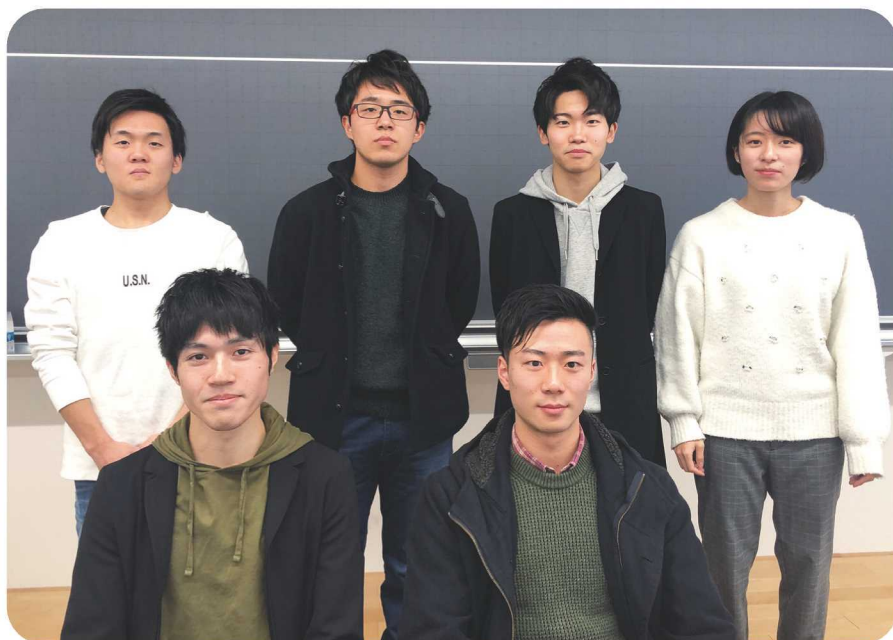
総合政策学部ゼミナール研究発表会によせて

総合政策学部ゼミナール連絡会 丸山 いくみ

そろそろ2019年も終わりますが、暖冬の陽気に包まれながら改めて振り返ってみると、今年は大きな台風が続いた年でした。

今年度の「総合政策学部ゼミナール発表会」は、杏園祭初日の10月22日に行われる予定でした。その日に向けて、総合政策学部の7つのゼミから各1~3チーム、計13チームが準備を進めてきており、司会担当だった私自身も発表を聞くのを実は楽しみにしていましたが、残念ながらこれも台風で中止となってしまいました。

ゼミナールの発表は、同じ分野でも、設定するテーマによって内容が大きく変わってきます。また、各チームのプレゼンテーションの仕方に注目してみるのも面白い見方かもしれません。そのため、来年は是非とも多くのお客様に来ていただき、発表会を楽しんでもらえるよう、杏園祭もゼミナール発表会も無事に開催できることを願いつつ、ゼミナール活動により一層励んでいきたいと思っております。皆さまのご来場をお待ちしております。



2019年6月12日に総合政策学部賞の授与式が行われました。総合政策学部賞は、各学年の成績優秀者と学部主催行事や学内外の活動で活躍した学生および団体に贈られます。受賞されたみなさんおめでとうございます。今後の益々のご活躍を期待しています！

■ 成績優秀者

- 【2年生】 長町まみこ／松橋舞／磯野杏菜／李美英／阿野智恵
吉川一成／多田野佳穂／黒木利奈／吉本瞳／高橋由衣
【3年生】 月岡杏菜／小田智美／笠原未菜美／桑野勇氣／中山泰一
尾崎太一／藤原詠菜／長屋佳奈／船越卓人／氏家優
【4年生】 寺田龍人／宮嶋将基／鈴木捺美／長谷川透吾／碓大毅
朱瑞康／小倉祐也／網谷紀香／福田健洋／井上瑠美
【既卒者】 竹内雅俊／大久保結芽／池上理紗子／鮫島菜々／吉村芽吹
森田一生／竹谷和希／永瀬柚菜／井口地大／大久保葵



■ 課外・社会活動等の功績者

- 鮫島菜々(ゼミ連、杏林キャリアサポーター)
井出和海(野球)／櫻井謙也(野球)／竹内雅俊(杏林キャリアサポーター)
長谷川透吾(ゼミ連)／高橋光海(ゼミ連)／前田陸(ゼミ連)
碓大毅(キャリア支援交換会代表学生)
藤原ゼミ・斉藤ゼミ(三鷹市より環境活動表彰)
木暮ゼミ(大学コンソーシアム八王子学生発表会優秀賞)
久野ゼミ(多摩学生まちづくり・ものづくりコンペティション本選等にて優秀賞・奨励賞)



■ 資格・検定等の合格者・高得点者

- 田嶋克侑(教員免許)／森雄輝(宅建士)



令和元年度馬田啓一賞の授賞式が行われました。この賞は、総合政策学部の馬田啓一名誉教授のご寄付のもと設立され、学生の研究と勉学を奨励するため、毎年、一定の課題を募集し、総合政策学部生と高校生の部に分けて表彰しています。

今年の課題テーマとして、総合政策学部生の部は小島道一著『リサイクルと世界経済～貿易と環境保護は両立できるか』(中公新書、2018)の書評で、高校生の部は塚田祐之著『その情報、本当ですか』(岩波ジュニア新書、2018)の書評でした。

馬田先生からは「日本のこと、世界のこと、未来のことを考え、この賞をもらったことを1つのきっかけ、自分自身のバネにして、大きく成長して欲しい。」と激励のお言葉がありました。

受賞されたみなさま、おめでとうございます！

総合政策学部一同、ますますのご活躍を期待しております！



総合政策学部生の部

最優秀賞(10万円):今井暁子さん

優秀賞(5万円):長崎琉奈さん、服部玲奈さん

高校生の部

優秀賞(5万円):水島里佳子さん

(武蔵野大学高校3年)



▲総合政策学部生の部

1列目:左から長崎さん、今井さん、馬田先生、服部さん

2列目:左から内藤学生部長、大川学部長、伊藤教務部長

▲高校生の部

左から伊藤教務部長、水島里佳子さん、内藤学生部長

高等教育の修学支援新制度についてのご案内 (授業料等減免と給付型奨学金)

本制度は経済的に困難な学生への支援制度で、採用されると最大で年間授業料が70万円免除、さらに毎月の給付奨学金が貰えます。これから新たに申し込みを希望する学生は、2020年4月開催の説明会に参加する必要があります。説明会の日時等はUniversal Passport(メール配信システム)や学内掲示板で案内します。保護者の皆様におかれましては、ご子息・ご息女へ確認のご連絡をお願い致します。

■ 対 象

家計の収入条件・成績条件があります。詳しくは文科省のページをご確認ください。

<http://www.mext.go.jp/kyufu/index.htm>

■ 注意点

1. 家計の収入に応じて給付額・減免額が決まります。
2. 授業料減免は、通常の学納金を全額お支払いいただき、新制度採用決定後に免除分を返金する形になります。
3. 現4年生、大学院生は対象外です。

■ 問い合わせ先

杏林大学 学生支援課 奨学金担当

syogakukin@ks.kyorin-u.ac.jp



杏会会長
舍利弗 孝通

早春の候、皆様方におかれましては、益々ご清福のこととお慶び申し上げます。この度、令和元年、総合政策学部杏会会長を仰せつかりました舍利弗（とどろき）と申します。今後とも、会員の皆様、役員、事務局、教職員の方々のお力添えを頂きながら、本学部生の学生生活が充実したものであるように、精一杯活動してまいりますので、ご協力を賜れますようお願い申し上げます。

さて、4年生は学生生活も残り少なくなってきました。ここで、私から新たに社に出る4年生に向けて、次の言葉をお送りしたいと思います。

「恵まれた環境にあっても、愚痴まみれの人がいる。不平不満の塊の人がいる。苦しい逆境にあっても、笑顔の人がいる。感謝を忘れない人がある。性格じゃないんだ。その人の意志なんだ。どんな時も、感謝を忘れない。」

皆さん、感謝できる人や感謝をいつまでも忘れない人になってください。人は自分ひとりの力だけでは、仕事はできません。目の前にいる先輩、上司、それだけでなく、目の前にいない多くの人たちがいて、その人たちに支えられて仕事ができます。だから支えてくれる人に感謝をすることが大事です。多くの人たちに支えられて、皆さんの存在があります。

「名刺で仕事をするな」そうよく言います。常に自問自答してください。もし、皆さんに頭をさげる人がいたら、「自分という人間に頭をさげているのか」、「会社という看板に頭をさげているのか」そう自らに常に問うてください。勘違いをしな

いでください。決してうぬぼれないでください。ですから、その反対に、感謝できる人になってください。どんな人にもどんな時にも、感謝ができること。それは、人としての大きな目標です。「ありがとうございます」という、このたった一言が無事で、人は不快になります。「この人とは一緒に仕事がしたくない」と思われ、仕事を進めるのが難しくなります。反対に、心を込めた感謝のひと言があることで、感動を与え、人生の道が大きく広がっていくことがあります。

「感謝しない人は、感謝されない人になります。感謝する人は、感謝される人になります。」

これから社会で働き始める皆さんにとって、最良にして最強の武器、それが感謝の言葉です。「ありがとうございます」この言葉を携えて、社会という大草原で多くの人から感謝をされる、大いなる活躍を祈っています。

「杏門会」は、平成一四年に総合政策学部の名称変更に伴い、「社会科学部卒業生の会」から改称しました。

杏門会の「杏」は杏林大学の頭文字からいただき、「門」は一緒に学んだ仲間を表しており、杏林大学とともに学んだ場として、この名称が相応しいと考えました。

卒業生の数も10000名を超え、多くの卒業生とご父兄のご厚意により運営しております。

平成二八年四月から八王子キャンパスの学部は、井の頭キャンパスに移転して三鷹に集まることとなり、母校の更なる発展が期待できます。

当会も母校と卒業生の一層の活躍に寄与できるよう活動を進めてゆくつもりです。皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

事務局 平本 実

卒業記念パーティー開催のご案内

2020年3月15日(日)
卒業式当日

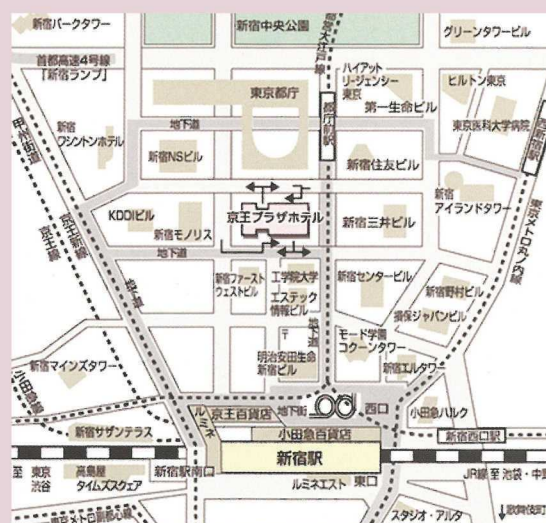
卒業記念パーティー
18:00開場/18:30開宴

京王プラザホテル

〒160-8330

東京都新宿区西新宿2-2-1

TEL.03-3344-0111(代表)



- 2020年3月卒業、9月卒業予定の学生と保護者の皆さまは卒業パーティーに無料でご出席いただけます。
- 卒業パーティー会場の京王プラザホテルには、更衣室(7階)があります。宅配便(3階)を出すことも可能です。
- 3階のメインクロックをご利用ください。
- アルコール類の提供がございます。お車でのご来場はお控えください。

編集後記

今年度も無事に『杏ジャーナル』を皆様にお届けできるとなりました。ご執筆いただいた方々、ご協力いただいた方々、本当にありがとうございます。この場をお借りして心から御礼申し上げます。

今回も前号に引き続き、より多くの学生を紙面に登場させようと思ひまして、成績優秀学生、長期の留学を経験した学生、地域活動で活躍する学生、そして就職活動を終えた学生などを紹介しています。ぜひとも、このキャンパスで精一杯、頑張る学生たちの姿をご覧頂ければと思います。

さて、八王子キャンパスから井の頭キャンパスに移転して、早くも4年の月日が流れました。キャンパス移転後、受験生の数も増加し、大学や学部への認知度も上がってきました。とはいえ、今まで以上に、学生たちにとって、このキャンパスが「大切な場所」となるよう、われわれ教員も一丸となって努力していきたいと思ひています。

今後とも、杏会の皆様のご協力をお願いする次第です。よろしくお願ひいたします。

杏ジャーナル 編集委員長

木暮健太郎

劉 迪

北田 真理

松井 孝太

